

総合図書館 清教リブラリア

2023 年度 事業報告

- ・「図書館総合展 2023」出展、来場者数 251 件を達成
- ・高校生年間貸出点数が好調、生徒 1 人当たり 8.1 冊に
- ・アカデミカ生徒論文が「調べる学習コンクール」優秀賞・読売新聞社賞
- ・「第 3 回 情報活用授業コンクール」優秀賞受賞
- ・訪問者 35 件 371 名の新記録・累計 2000 名突破



清教学園中・高等学校 図書館教育

2024 年 5 月 27 日



さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒野に行かれた。そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」イエスはお答えになった。

「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

マタイによる福音書（4章 1-4節）

目次

I トピックス	p.4
「図書館総合展 2023」出展、来場者数 251 件を達成 高校生年間貸出点数が好調、生徒 1 人当たり 8.1 冊に さんが「調べる学習コンクール」優秀賞・読売新聞社賞 「第 3 回 情報活用授業コンクール」優秀賞受賞 訪問者 35 件 371 名の新記録・累計 2000 名突破	
II 施設概要	p.6
III 資料統計	p.7
IV 利用統計	p.10
V 2023 年度の記録	p.13
「第 27 回 図書館を使った調べる学習コンクール」入賞 「MONO-COTO INNOVATION202」本選出場 「第 8 回 大阪府中高生ビブリオバトル大会」出場 「第 3 回 情報活用授業コンクール」優秀賞受賞 「図書館総合展 2023」サテライト会場として出展 定例の図書館企画・行事・イベント 訪問者（敬称略）35 件 371 名の新記録・累計 2000 名突破 2023 図書館での授業・企画・行事・イベントの様子(写真集)	
VI 課題	p.27
配架スペースの不足を補う書架の増設 スタッフ減によるサービス継続困難	
VII 図書館リブラリアの歩み	p.29
【巻末特集 1】「本と私たちはここにいます」広報 PR：学校外に向けての発信 【巻末特集 2】「はじめての探究学習」の実践：自らテーマを見つけ、多様な図書館資料を味方に自ら学ぶ	

I トピックス

「図書館総合展 2023」出展、来場者数 251 件を達成 (p.16 / 動画添付あり)

図書館業界最大の業界イベント「図書館総合展」にリブラリアが3年ぶりに参加。サテライト会場として11月9日(木)に出展しました。直接来校、ライブ・アーカイブ配信の複数形態でイベントを展開し、総計 251 件もの参加者が集まりました。当日は来場者向けに以下のような企画を用意しました。

- ・公開授業 (中3 卒業論文「なんでやねん」/高1「Global Studies」)
- ・トークセッション (卒業生・在校生・リブラリアスタッフ×来場者)
- ・在校生による図書館案内ツアー



中でも目玉企画となったのが、在校生・卒業生によるトークセッション。清教学園の探究学習カリキュラムで学んだ在校生・卒業生をゲストに招き、図書館で学んだ経験について語ってもらいました。

卒業生は自分でテーマを考えて論文を書いた経験が、現在の自分の人生にどのように繋がっているのかを熱く語りました。在校生は学外からの来校者・ライブ配信を視聴しているオンライン参加者と直接やりとりしながら、図書館ツアーを実施。生徒目線でみたリブラリアのみどころを紹介しました。さらに、中学時代の卒業論文の経験や、図書館での読書体験を語ってくれました。

当日は学術研究者(大学教員)、学校教育関係者、図書館業界の企業など様々なゲストが、「探究学習や図書館教育が、生徒の成長やその後の人生にどう繋がるか」を主な関心として参加。来場者からはたくさんの質問が押し寄せ、卒業生・在校生はそのつど、自身の考えを真摯に述べてくれました。

探究学習や図書館業界に関わる人々が求める問いの一つの解を、登壇した卒業生・在校生が示す機会となりました。

高校生の年間貸出点数が好調、生徒 1 人当たり 8.1 冊に(p.10)

長年の課題だった「高校生の利用」が、ここ数年回復傾向にあります。様々な図書館サービスが功を奏し、2023 年度の高校生ひとりあたりの年間貸出点数は 8.1 点を達成しました。高校「Global Studies」授業カリキュラムの改訂と図書館からの授業支援、朝の読書への出張サービスなど、近年のアウトリーチサービスの取り組みが背景にあると考えられます。旧探究科の廃止（2017 年度）以降、授業での継続的な利用が積極的に行われず、一時期はひとりあたりの年間貸出点数が 4.0 点にまで落ち込むこともありましたが、長年続いたそのような低迷状況から「脱した」と言えそうです。

さんが探究論文で優秀賞・読売新聞社賞(p.13)

小・中・高校生が参加できる公募の研究評価機構の中では、老舗・登竜門の「調べる学習コンクール」に参加。2024 年度は全国から 11 万 8 千点を超える応募がありました。

さんは、高校で探究学習に取り組む有志団体「清教アカデミカ」にて、『漆文化をどのように継承していくか：商品としての付加価値を漆によって演出しブランド化して世界に売り出す』をテーマに研究。中 3 次の卒業論文を改稿して出品し、みごと優秀賞・読売新聞社賞を受賞し入賞を果たしました。清教学園からの入賞者は久しぶりです。



「第 3 回 情報活用授業コンクール」優秀賞受賞(巻末特集 2)

公益社団法人全国学校図書館協議会主催による「第 3 回 情報活用授業コンクール」において、中学 1 年生の総合学習「はじめての探究学習」単元で優秀賞を受賞しました。

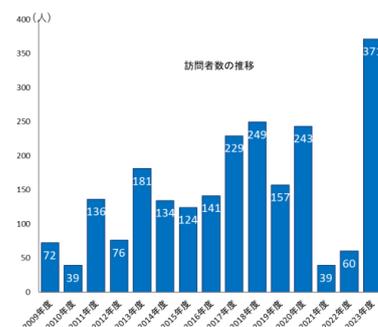
応募にあたり「総合的な学習の時間「はじめての探究学習」の実践—自らテーマを見つけ、多様な図書館資料を味方に自ら学ぶ—」というタイトルで、中学 3 年間にわたる「総合的な学習の時間」において、その掉尾を飾る卒業論文「なんでやねん」のはじめの一步となる「はじめての探究学習」（愛称「はじたん」）の授業実践を報告。8 月 22 日(火)にはキハラ株式会社本社での表彰式に参加しました。



訪問者 35 件 371 名の新記録・累計 2000 名突破(p.22)

2023 年度のリブラリアへの訪問者は 35 件 371 名（新記録）でした。新型コロナウイルス感染症に関する状況などがかなり落ち着き、海外からのお客様も増えています。2023 年度訪問者のうち 251 名は、リブラリアが 11 月に出版した「図書館総合展 2023」サテライト会場への参加者数です（正確には「申し込み件数」で参加者実数は大学の講義等で視聴されたことなどもありさらに多い）。

これにより、2009 年からの累計訪問者数は 2252 名となり、2000 名の大台に乗りました。



II 施設概要

名称：総合図書館 清教リブラリア

所在地：〒586-8585 大阪府河内長野市末広町 623

Tel：0721-62-6828（内線 28、29）

HP：<https://libraria.seikyo.ed.jp/>

X(旧ツイッター)：<https://twitter.com/seikyolibraria> (@seikyolibraria)



理事長・チャプレン：井上良作 中学高校・校長：森野章二

中学高校・副校長：菊岡秀行 中学・教頭：西村優子 高校・教頭：慎繁範

スタッフ：片岡則夫（非常勤探究科教諭）山根美智子（司書）南百合絵（司書教諭）

山崎勇氣（司書教諭）上河博美（常勤司書）前野昌子（非常勤司書）

生徒数：中学校 446名（1年151名 2年149名 3年146名）

高等学校 1288名（1年441名 2年441名 3年406名）

総生徒数 1734名（昨年度1654名）

職員数 151名（昨年度147名）利用者合計 1885名（昨年度1845名）

学級数：中学校12学級 高等学校33学級 合計45学級

設置：2002年4月（「総合図書館清教リブラリア」として現在の場所で開館）

図書館：床面積/約256㎡（カウンター・司書室を含む） 座席数/20席

書庫（スタディホール・ホール上）

業務端末/7台 生徒検索端末/2台 無線LAN iPad/3台

蔵書管理システム/LibMax（ソフテック）：

<https://www.lib-eye.net/sekyogakuen/private>

図書館発注システム/TOOLi-S（TRC）



総合学習室：床面積/約98.2㎡

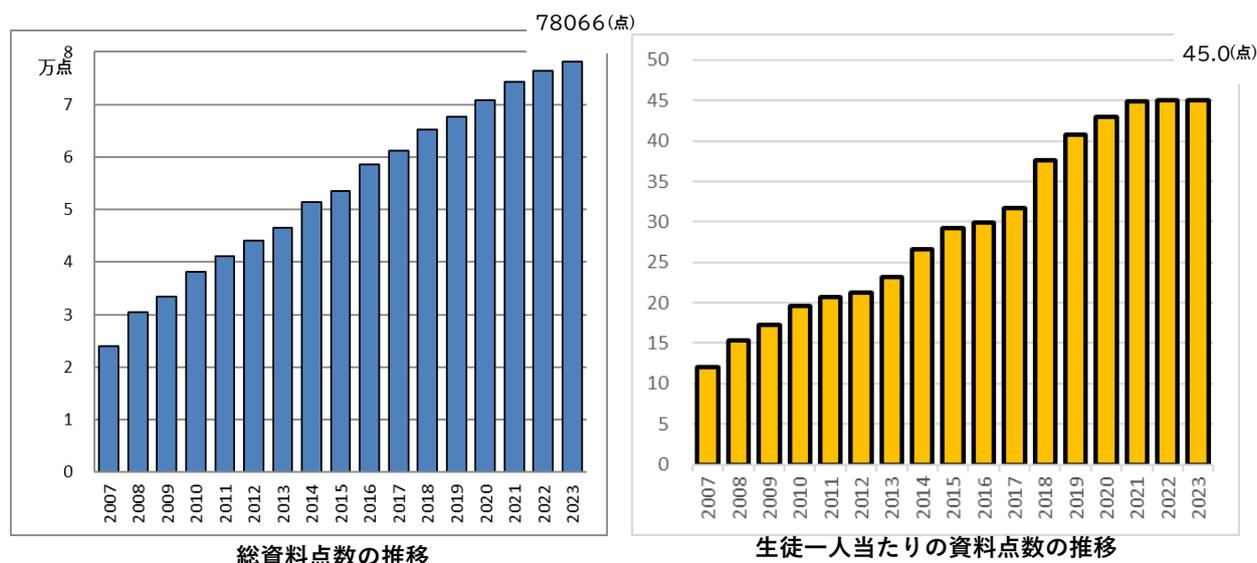
座席数/40席 生徒用PC/45台 無線LAN

ラーニングcommons：座席数/96席

III 資料統計

資料数は 78066 点：生徒 1 人当たり 45.0 点で頭打ち

本年度リブラリアの総資料数は 78066 点となりました。2022 年度末より 1643 点の増加です。資料数の増加に伴い、長期にわたって提案しているように、図書館の大規模なレイアウト変更・増築・移転が強く求められる状況が続いています。また、生徒 1 人あたりの資料数は生徒増と廃棄数増が影響して微増となりました。



1. 購入図書点数 2974 点

分類	総記	哲学	歴史	社会	自然	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが	合計
			地理	科学	科学						絵本他	
冊数	69	130	410	539	386	197	163	357	50	631	42	2974
%	2.3	4.4	13.8	18.1	13.0	6.6	5.5	12.0	1.7	21.2	1.4	100.0

2. 購入視聴覚数 0 点

3. 寄贈図書 357 点

分類	総記	哲学	歴史	社会	自然	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが	合計
			地理	科学	科学						絵本他	
一般寄贈	16	24	24	26	21	21	1	72	5	80	67	357

※ PTA 学級図書費購入分も含む

4. 遡及作業 19 点

5. 生徒作品 (卒業論文等) 受入分 140 点

分類	総記	哲学	歴史	社会	自然	工業	産業	芸術	言語	文学	合計
			地理	科学	科学						
冊数	3	3	4	21	16	27	15	45	5	1	140

6. 総受入点数 3490 点

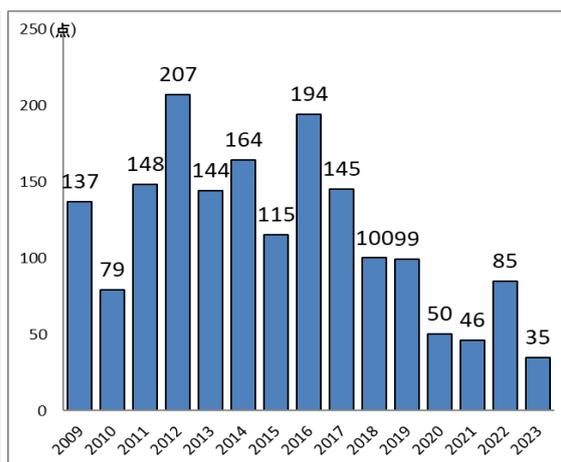
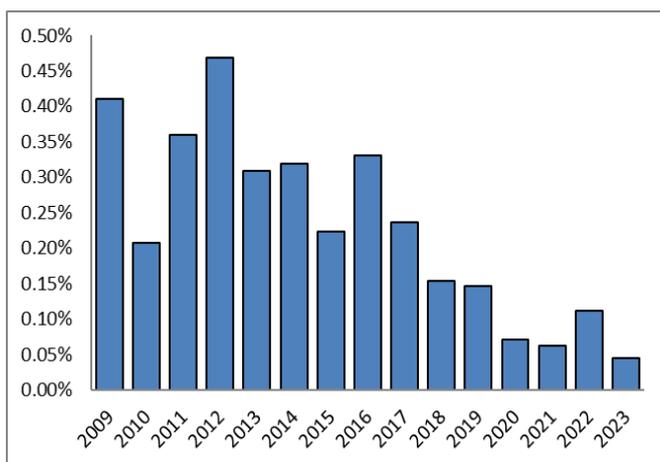
分類	総記	哲学	歴史	社会	自然	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが	合計
			地理	科学	科学						絵本他	
冊数	88	157	440	592	425	245	179	476	61	717	110	3490

7. 紛失資料数と紛失率 35 点・0.04%

年間紛失率 = 年間紛失点数 ÷ 蔵書点数 × 100

被害額 約 63000 円 (単価 1800 円として)

※これまでの紛失図書の累計 2271 点 被害総額概算 341 万円



年間紛失率の推移

年間紛失点数の推移

8. 廃棄数点数 1950 点 (昨年度 777 点)

9. 総蔵書数・蔵書構成 78066 点

分類	総記	哲学	歴史	社会	自然	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが	合計
			地理	科学	科学						絵本他	
生徒作品	56	40	79	270	344	350	338	419	36	32	0	1964
寄贈	277	334	462	638	551	212	134	607	352	3687	803	8057
蔵書合計	2156	3712	5621	10135	9854	5972	4890	9186	1962	22144	2434	78066
%	2.8	4.8	7.2	13	12.6	7.6	6.3	11.8	2.5	28.4	3.1	100

※生徒作品にはテキスト・年報を含む。まんが・絵本他には視聴覚資料 380 点を含む

10. 生徒一人あたりの平均蔵書数 45.0 点（昨年度 45.0 点）

11. 教室設置図書（すくどの本）の冊数 488 冊

分類	総記	哲学	歴史	社会	自然	工業	産業	芸術	言語	文学	まんが	合計
			地理	科学	科学						絵本他	
中1	2	0	1	6	6	1	2	1	5	76	0	100
中2	0	1	1	18	9	0	1	1	5	64	0	100
中3	2	5	2	6	15	1	3	8	4	78	0	124
中学 (12クラス)	4	6	4	30	30	2	6	10	14	218	0	324
高校 (9クラス)	5	13	8	17	16	4	2	2	5	91	1	164
合計	9	19	12	47	46	6	8	12	19	309	1	488

12. 教室設置図書（すくどの本）の紛失数 32 冊（昨年度 35 冊）全体に対する紛失率 6.6%

13. 雑誌 購入 21 誌・寄贈 2 誌

アニメージュ	オレンジページ（隔週）	東洋経済	学校図書館
鉄道ジャーナル	進学通信（関西版）	私立中高進学通信	Number
ダ・ヴィンチ	THE BIG ISSUE JAPAN	日経エンタテイメント	MOE
月刊ピアノ	ナショナル・ジグラフィック日本版	News がわかる	スクリーン
mg（エムジー）	ロッキング・オン・ジャパン	声優グランプリ	Newton
（季刊）うかたま	JICA's MAGAZINE World（寄贈）	ねこのきもち（寄贈）	—

14. 新聞 購入 3 誌

読売新聞	毎日新聞	the japan times
------	------	-----------------

15. データベース 2 件

朝日けんさくくん 50 ライセンス	ジャパンナレッジ 職員用 1 ライセンス
-------------------	----------------------

IV 利用統計

貸出点数 高校は増大・中学は微増

2023年度の1人あたりの年間貸出点数は全生徒で17.0点/年となり、昨年度より0.9点増でした。中学が42.7点/年と0.3点の微増、一方で、高校は8.1点/年と1.5点の増となりました。高校の増加は探究学習での図書館利用や、朝の読書時の「おためし読書」の効果が現れていると考えられます。また、総貸出点数は32600点で昨年度に比べて2800点増加しました。高校生の利用増によるものと考えられます。

開館時間：月曜日～土曜日 8：10～18：00 ※長期休暇中は別に定める

開館日数：273日（前年度280日）

授業利用時間：総合学習室 12時間/週（中1～3年 各4クラス）

ラーニングcommons キリスト教概論（Global Studies II）11時間/週

スタディホール 社会演習（Global Studies I）11時間/週

その他（保健体育、オンライン英会話、物理等）

貸出方法・期間 貸出点数：20点まで／貸出期間：14日以内 ※長期休暇中は別に定める

年間総貸出点数 32600点（前年度29800点）

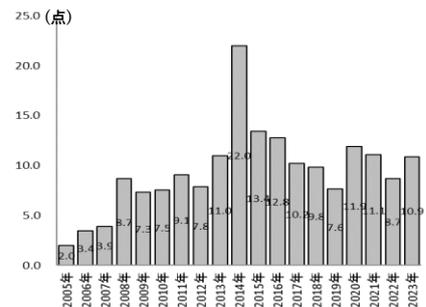
利用者1人あたりの貸出点数 [貸出密度]（ ）は前年度

全生徒 17.0点/年（16.1点/年）

中学生 42.7点/年（42.4点/年）

高校生 8.1点/年（6.6点/年）

職員 10.9点/年（8.7点/年）



開館日1日あたりの貸出点数：120.9点（前年度111.8点）

職員1人当たりの年間貸出点数推移

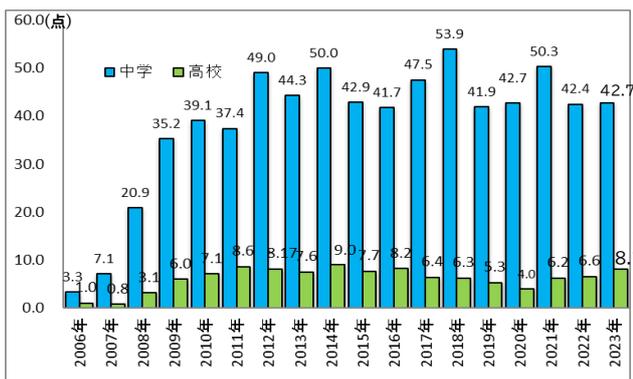
蔵書1点あたりの平均貸出回数 [蔵書回転率]（年間貸出点数÷全蔵書点数）：0.42回（前年度0.39回）

新しい本が図書館にどの程度入ったか [蔵書新鮮度]：4.5%（前年度4.7%）

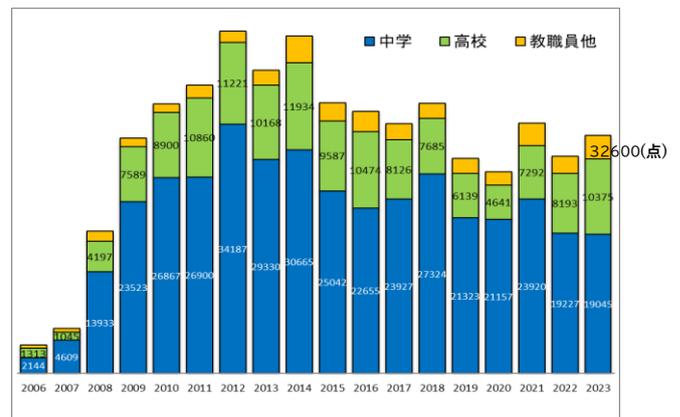
（蔵書新鮮度＝その年の蔵書受入点数÷全蔵書点数×100：数値が高いほど書架に新しい本が多い）

複写申請数 35件（昨年度42件）複合機によるデジタルスキャンの利用増加で減少継続

他館借受本 210点（昨年度293点）河内長野図書館他



生徒1人当たりの年間貸出点数の推移



年間総貸出点数の推移

年間貸出統計 [2023 年度]

	中1	中2	中3	中学生 貸出合計	高1	高2	高3	高校生 貸出合計	職員	幼稚園	教科他	総貸 出数	開館 日数	1日 平均	予約/ リクエスト
4月	828	127	484	1439	542	334	123	999	111	0	333	2882	17	169.5	112
5月	1502	144	501	2147	406	795	149	1350	173	0	286	3956	22	179.8	285
6月	974	120	812	1906	328	540	145	1013	147	92	522	3680	25	147.2	141
7月	646	124	853	1623	432	427	225	1084	195	0	57	2959	24	123.3	154
8月	264	45	391	700	134	141	128	403	137	0	0	1240	26	47.7	26
9月	354	116	655	1125	927	157	257	1341	98	0	0	2564	24	106.8	130
10月	286	1000	500	1786	602	222	302	1126	153	138	0	3203	25	128.1	105
11月	567	568	840	1975	475	172	213	860	148	0	0	2983	24	124.3	145
12月	483	433	1233	2149	437	241	65	743	175	0	0	3067	23	133.3	97
1月	207	982	540	1729	307	147	81	535	131	0	0	2395	20	119.8	78
2月	144	359	572	1075	256	151	109	516	78	86	0	1755	20	87.8	74
3月	283	728	380	1391	245	133	27	405	96	0	24	1916	23	83.3	56
集計	6538	4746	7761	19045	5091	3460	1824	10375	1642	316	1222	32600	273	120.9	1403

分類別貸出点数と回転率

分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	視聴覚	絵本	マンガ	その他	合計
貸出 冊数	519	1476	1239	4573	3850	2625	2474	5226	710	8684	18	351	764	91	32600
分類別 回転率(%)	0.24	0.40	0.22	0.45	0.39	0.44	0.51	0.57	0.36	0.39	0.67				0.42
蔵書 回転率(%)	0.01	0.02	0.02	0.06	0.05	0.03	0.03	0.07	0.01	0.11	0.02				

※ 「蔵書回転率」は蔵書1点あたりの平均貸出回数（蔵書回転率＝年間貸出数÷全蔵書数）

※ その他は他館からの借受本など。

すくど文庫の分類別蔵書・貸出統計

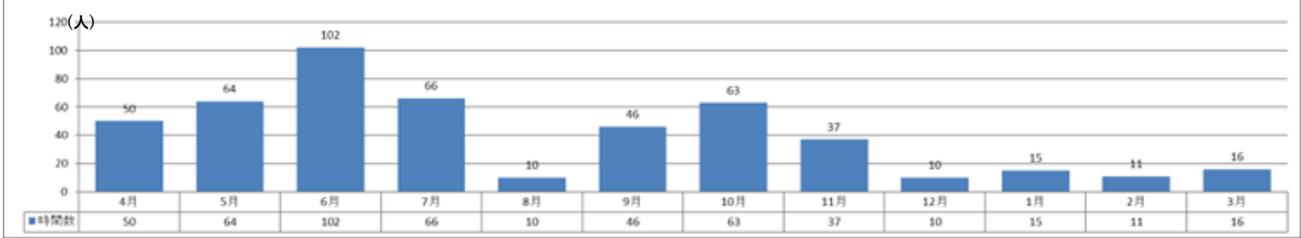
分類	総記	哲学	歴史 地理	社会 科学	自然 科学	工業	産業	芸術	言語	文学	絵本 ほか	合計
蔵書冊数	58	91	91	218	327	91	99	187	51	1786	8	3007
貸出冊数	34	51	25	82	76	65	28	53	36	402	0	852
回転率(%)	0.01	0.02	0.01	0.03	0.03	0.02	0.01	0.02	0.01	0.13	0.00	0.28

未貸出者率 1年間に貸出がなかった生徒職員の人数と割合

	教職員	中1	中2	中3	高1	高2	高3	全体
貸出0(人)	99	0	8	4	50	107	198	466
総数(人)	151	151	149	146	441	441	406	1885
割合(%)	65.6	0.0	5.4	2.7	11.3	24.3	48.8	24.7

図書館登校生徒の状況 () 内は前年度

図書館登校生徒の月別利用時間数



年間利用日数：150日 (257日)

利用生徒：23名(18名)

総利用時間数：376時間 (校時/531時間)

中学			高校			合計 (人)
1年	2年	3年	1年	2年	3年	
4	8	6	2	2	1	23

図書館登校生徒/学年と人数

長期休暇中の利用 () 内は前年度

総開館日数：36日 (38日)

総入館者数：1416人 (1333人)

利用：貸出 627点 (698点)

返却 475点 (623点)

1日あたりの入館者：39人 (35人)

1日あたりの貸出数：17.4点 (18.3点)

1日あたりの返却数：13.1点 (16.3点)

	夏季	冬季	春季	合計
開館日数(日)	20	6	10	36
利用者(中)(人)	411	40	42	493
利用者(高)(人)	599	60	34	693
利用者(職)(人)	94	19	24	137
見学者(人)	74	14	6	94
貸出点数	480	68	79	627

長期休暇中の利用状況

V 2023 年度の記録

〔第 27 回 図書館を使った調べる学習コンクール〕 主催：公益財団法人 図書館振興財団
さん（高 1C）

優秀賞・読売新聞社賞 調べる学習部門 高校生の部

『漆文化をどのように継承していくか：商品としての付加価値を漆によって演出しブランド化して世界に売り出す』

同コンクールは、小・中・高校生が参加できる公募の研究評価機構の中では、老舗・登竜門のコンクールです。清教学園からは、中学 3 年次の総合学習で卒業論文を書いた生徒や、図書館が有志を募って指導する研究サークル「清教アカデミカ」のメンバーが、毎年応募しています。2024 年度は全国から 11 万 8 千点を超える応募がありました。

さんは、中学 3 年次総合学習で作成した卒業論文に高校入学後も手を加え、「調べる学習部門 高校生の部」に応募。名だたる名門校の研究論文を抑えて、優秀賞・読売新聞社賞を受賞しました。漆と日本文化の関わりを文献調査から緻密に検討し、国内外における漆消費の現状を明らかにした点、さらに、新たな漆商品の開発を続ける京都の職人に取材し、現代の漆ニーズと今後の展望を検討した点が評価されました。

【 さんのコメント】

自分の興味をきっかけに読書して勉強し、実際の現場の方に取材できたことがとても楽しかったです。漆のスペシャリストである職人の方への取材では、レザー製品や工具など、「漆×〇〇」で、今の時代にあった漆製品を生み出し、既成概念に囚われず、価値を高めていることに触れることができ、感銘を受けました。

〔MONO-COTO INNOVATION2023〕 主催：一般社団法人 CREATION DRIVE

さん（中 2A）

全国の中高生が学校の枠を超えてチームを組み、デザイン思考を活用しながら、テーマ「本屋の再定義」に対して革新的なアイデア創造に挑戦する 5 日間のプログラム。さんは、予選選考を経てみごと本選へ出場しました。4 泊 5 日の合宿で、他校の生徒とアイデアを出し合い、プレゼン審査に挑戦しました。



[第8回 大阪府中高生ビブリオバトル大会] 主催：大阪府

さん（高1D）

校内選考を経て学校代表として高校生大会に出場。小川洋子『人質の朗読会』を選び、大阪府の各校から選抜された全21名の中で、練習時間が少ない中でしたが、落ち着いて発表していました。

さん（中2D）

校内選考を経て、学校代表として中学生大会に出場。廣嶋玲子『十年屋』を選び、大阪府の各校から選抜された全31名の参加者の中、堂々と本紹介ができました。残念ながら本選出場はかないませんでした。他校出場生徒との交流もでき、刺激的でよい経験になりました。



「情報活用授業コンクール」優秀賞受賞(巻末特集2に報告書あり)

公益社団法人全国学校図書館協議会主催による「第3回 情報活用授業コンクール」において、中学1年生の総合学習「はじめての探究学習」単元で優秀賞を受賞しました。

応募にあたって、「総合的な学習の時間「はじめての探究学習」の実践:自らテーマを見つけ、多様な図書館資料を味方に自ら学ぶ」というタイトルで、中学3年間にわたる「総合的な学習の時間」において、その掉尾を飾る卒業論文「なんでやねん」のはじめの一步となる「はじめての探究学習」(愛称「はじたん」)の授業実践を報告しました。

8月22日(火)にキハラ株式会社において表彰式があり、司書の山崎が出席しました。



[図書館総合展 2023] 主催：図書館総合展運営委員会

図書館業界最大の業界イベント「図書館総合展」にリブラリアが3年ぶりに参加。「サテライト会場」として11月9日（木）に出展しました。直接来校、ライブ・アーカイブ配信といった複数の形態でイベントを展開し、総計251件もの参加者が集まりました（参観者内訳はp.25-26を参照）。当日は来場者向けに以下のような企画を用意しました。

- ・公開授業（中3卒業論文「なんでやねん」/高1「Global Studies」）
- ・トークセッション（卒業生・在校生・リブラリアスタッフ×来場者）
- ・在校生による図書館案内ツアー



公開授業では、中学総合学習に加え、今回は高校の探究学習「Global Studies」も公開。授業担当の貫名先生、武本先生にご協力いただきました。また、多数のコンテンツの中でも目玉企画となったのが、在校生・卒業生によるトークセッション。清教学園の探究学習カリキュラムで学んだ在校生・卒業生をゲストに招き、図書館で学んだ経験について語ってもらいました。

卒業生は さん（中学66期）、 さん（中学67期）の2名を招待。それぞれ「工業デザイン」「食文化」の視点で論文を書いた経験が、現在の自分の人生にどのように繋がっているのかを熱く語り、観客からの多数の質問に対しても、自身の考えを真摯に述べてくれました。

在校生は さん、 さん、 さん（いずれも高1）が参加。学外からの来校者と、ライブ配信を視聴しているオンライン参加者と直接やりとりしながら、図書館ツアーを実施。生徒目線でみたリブラリアのみどころを紹介しました。さらに、中学時代の卒業論文の経験や、図書館での読書体験を語ってくれました。

当日は学術研究者（大学教員）、学校教育関係者、図書館業界の企業など様々なゲストが、「探究学習や図書館教育が、生徒の成長やその後の人生にどう繋がるか」を主な関心として参加。探究学習や図書館業界に関わる人々が求める問いの一つの解を、登壇した卒業生・在校生が示してくれました。



図書館総合展 2023 アーカイブ動画リンク

図書館総合展で参加者向けに配信したアーカイブ動画です。いずれの企画もノーカットで撮影し、テロップのみ入れて編集しました。当日の様子がよくわかる内容になっています。URL、QRコードからどうぞ。



	タイトル	動画リンク URL	QR
1	中学3年生 探究学習「卒業論文なんでやねん」公開授業	https://youtu.be/Novp2dGLzqo	
2	高校1年生 探究学習「Global Studies I」公開授業	https://youtu.be/NoAR8PNixTU	
3	探究学習のカリキュラムに関する懇談会	https://youtu.be/ZSp0HR4xbew	
4	調査報告「探究学習で生徒はどう育ったか：15歳-28歳対象『卒業論文』振り返り調査」	https://youtu.be/xahG-uEXrk	
5	卒業生2名 × 教員によるトークセッション 「なんでも学べる学校図書館と、私の進路開拓」	https://youtu.be/xahG-uEXrk	
6	在校生による図書館ツアー	https://youtu.be/KB0aWzT_5FM	
7	在校生に聞く「私と図書館」懇談会	https://youtu.be/ukf_ualooSw	
8	清教学園「リブラリア」スタッフによる懇談会	https://youtu.be/65KYTt8LG4	

2023年度 Twitter 運用統計

	ツイート /累計	ツイート /年間	フォロワー /累計	フォロワー 増加数/年
2015年度	153	153	192	192
2016年度	289	136	318	126
2017年度	425	126	407	89
2018年度	620	195	545	138
2019年度	728	108	642	97
2020年度	881	153	797	155
2021年度	950	69	943	146
2022年度	1042	92	1105	162
2023年度	1131	89	1186	81



学年やクラス等、館外への「アウトリーチサービス」 6件以上

通常業務として、リブラリアは開館中常にレファレンスサービスをおこなっています。固定利用として、中学総合学習（12クラス）、高校 Global Studies（22クラス）など、探究学習系の授業が図書館併設の教室で行われ、授業中も通年で資料相談やテーマ相談などに対応しています。2023年度は週当たり36コマ中、34コマで図書館が利用され、1週間の時間割あたりの利用率は94.4%でした。また、このほか以下のような館外サービスを実施しました。

時期	対象	サービス内容
通年	中学全 12クラス	学級文庫「すくどの本」を設置。司書と生徒が選書した平均24冊の本が試験ごとにクラスを巡回した。1クラスに年間100点あまりの本が届けられたことになる。
通年	高校9クラス [希望制]	学級文庫「すくどの本」を設置。司書が選書した平均20冊の本が試験ごとにクラスを巡回した。1クラスに年間100点あまりの本が届けられたことになる。
通年	中学3年生	卒業論文「なんでやねん」への資料支援・テーマ相談など。生徒の研究進捗状況を図書館スタッフが把握し、生徒ひとりひとりの研究テーマに応じてレファレンスを行った。
5-7月	高校全 33クラス	朝の読書の時間を利用し「出張おためし読書」を実施。司書が選書したノンフィクション7冊を生徒の机の上に面陳した。生徒は1冊選び、ためし読みを行った。155名の生徒がその場で貸出を希望し、貸出冊数は165冊となった。
9・10月	高校1年生	2クラスに南・上河による「おはなし会」を実施。
通年	高校1年生	自習時間を活用し、図書館でイベントを実施した。「おためし読書」「ほんトーク」など図書を活用した企画を用意し、本と親しむ機会をもった。

定例の図書館企画・行事・イベント

テーマ展示と「図書館だより」/9件

時期	テーマ	担当
4月	2022年度 清教学園図書館 ベストリーディング	上河
5月	マンガで読破 倫理・政治・経済の本 (feat.社会科 貫名先生)	山崎
6月	はじめての探究学習 (中学73期、中学74期) 作品展示	南
	中学3年生卒業論文「なんでやねん」展示 (中学72期)	南
7月	夏休み。普段できない事にチャレンジ!!	山根
9月	スポーツ小説	前野
10月	美味しそう! な本	上河
11月	秋にオススメの本	山根
12月	中学3年卒業論文「なんでやねん」展示 (中学73期)	山崎

その他の特集展示・掲示 / 37件

時期	テーマ	備考
4月	図書委員 オススメ本&POP	図書委員広報部
5月	図書委員 オススメ本&POP②	
	図書委員 文豪「中島敦」	
	中1おためし読書 (フィクション編)	
	中1おためし読書 (ノンフィクション編)	

	図書委員 オススメ	
	図書委員コーナー展示 「中学1年生にオススメの本」	
	図書委員コーナー展示 「マーケティング」	
6月	モンゴルについて	モンゴルからの留学生がいる間にモンゴルについて知りたい有志
	書委員コーナー展示 文豪「中島敦」	
7月	図書委員 オススメ本&POP③	
	図書委員コーナー展示「ナチス・ドイツ」	
	図書委員 オススメ本&POP④	
	図書委員 オススメ本&POP⑤	
	中島晶子の小説	新聞記事
9月	スキマ時間におすすめ本	
10月	イスラエル・パレスチナ問題	
	『プリニウス』	ヤマザキマリ・とりいみき記事
	西内ミナミさん追悼	『ぐるんぱのようちえん』
	清教幼稚園「リブラリア探検」おはなし会	『おぼけのてんぷら』『なぞなぞのみせ』『さつまのおいも』『わにさんどきっはいしゃさんどきっ』
11月	イラストレーター村本ちひろさん（卒業生）のサイン本	
	クリスマスの本	ツリーやクリスマスの装飾と共に絵本・本を展示
	阪神・オリックスの本	プロ野球 優勝球団
12月	ビブリオバトルで紹介された本	高校ビブリオバトル府大会
	図書委員 オススメ本&POP⑥	
2024年 1月	龍やドラゴンの出てくる本	辰年
	『日本人が知りたいドイツ人の当たり前』	ドイツからの留学生のオススメ本
	図書委員オススメ本&POP⑦	
2月	図書委員「図書館だより」で紹介した本	
3月	本屋大賞ノミネート作品	
	図書委員 コーナー展示「さくら」	
	図書委員 コーナー展示「動物たちからの愛情と感動を味わえる、とっておきの本」	
	英語科 角谷先生オススメ本	英語学習や勉強法
	図書委員オススメ本&POP⑧	
	鳥山明さん追悼	関連図書展示
	『あん』ほかドリアン助川/作の本	『あん』映画鑑賞会（高1）
	図書委員コーナー設置「ホロコースト」「人間関係」	

行事・企画 13件 参加者 582名(記録できたもののみ)

時期	行事・企画内容 ()内は参加者
5月	第1回 図書館クイズ (10名)
6月	有志探究クラブ「アカデミカ」全体ミーティング (10名)
	小4,5体験入学 (40名)
	第1回 清教幼稚園リブラリア探険 (子ども15名、大人12名、生徒ボランティア13名)
7月	第2回 図書館クイズ (10名)
9月	SGフェス 総合学習の作品展示、図書館の様子スライドショー
9・10月	第3回 図書館クイズ (15名)
10月	第2回 清教幼稚園リブラリア探険 (子ども27名、大人21名、生徒ボランティア9名)
11月	図書館総合展サテライト会場 (18名来校) & オンライン配信 (244組視聴申込) 中3 (総合学習)、高1 (地理総合GS I) 授業見学、卒業生がパネリストとなり語る会、 在校生による図書館案内、質疑応答など [9:50~19:15]
12月	宗教部・リブラリア クリスマス会 (詳細は後述) 第II部 (生徒10名、教員2名)
2月	第4回 リブラリアクイズ (9名)
	第3回 清教幼稚園リブラリア探険 (子ども17名、大人12名、生徒ボランティア18名)
	蔵書点検及び本の移動、書庫の書架増設、除籍本の検討と譲渡(不明)
3月	総合学習 中学3年生卒業論文研究発表会(授業での実施)
	入試結果報告会において小学生と①図書館ビンゴ②おはなし会 実施 (70名)

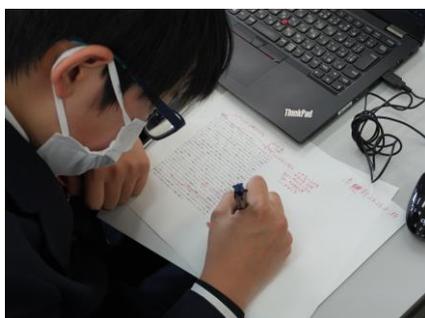
宗教部・リブラリア共催「クリスマス会」

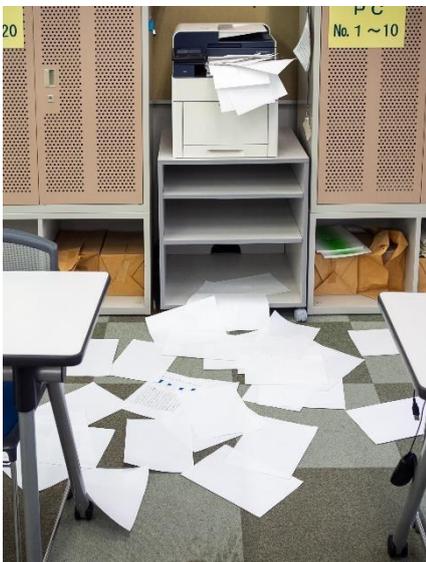
有志生徒による「のど自慢大会」をスタディホールで開催。川俣先生のお話のあと、10組の生徒たちがアイドルグループ風、バンド形式、ソロで熱唱など、様々なスタイルで観客を沸かせてくれました。オーストラリアからの留学生の飛び入り出演というサプライズもあり、大いに盛り上がりました。

第2部は総合学習室において、上河先生のストーリーテリング「12の月のおくりもの」の後、キャンドル作りを実施。参加者はアイデアや工夫満載の個性的なキャンドルを作っていました。



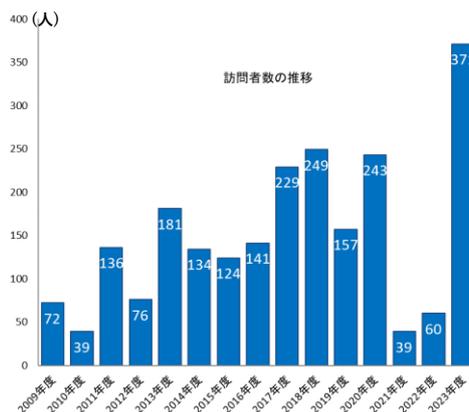
2023 図書館での授業・企画・行事・イベントの様子(写真集)





訪問者(敬称略)35件 371名の新記録・累計2000名突破

2023年度のリブラリアへの訪問者は35件371名(新記録)でした。新型コロナウイルス感染症に関する状況などがかなり落ち着き、海外からのお客様も増えてきました。うち251名は、リブラリアが11月に開催した「図書館総合展2023」サテライト会場への参加者数です(正確には「申し込み件数」で参加者実数は大学の講義等で視聴されたことなどもありさらに多い)。これにより累計訪問者数は2252名となり、2000名の大台に乗りました。



	日付	人数	所属	代表者氏名	訪問目的
1	5月22日	4	三重中・高等学校		図書館見学
2	5月25日	1	株式会社リクルート		図書館見学
3	5月30日	1	神戸女学院大学		図書館見学
4	6月1日	2	帝塚山学院泉が丘中・高等学校		図書館見学
5	6月20日	15	御所中学校 PTA		図書館見学
6	6月22日	2	帝塚山学院泉丘中・高等学校		図書館見学
7	6月23日	1	相生市立図書館		図書館見学
8	7月14日	2	大東市立深野中学校		図書館見学
9	7月27日	1	明治池中学校		図書館見学
10	7月27日	1	小金台小学校		図書館見学
11	8月7日	2	東京純心女子中・高等学校		図書館見学
12	8月23日	1	帝京平成大学		図書館見学
13	9月12日	4	足立区教育委員会		図書館見学
14	9月21日	1	同支社中・高等学校		図書館見学
15	9月22日	2	貝塚市立第三中学校		図書館見学
16	9月22日	1	貝塚市教育委員会		図書館見学
17	9月25日	2	智辯学園中・高等学校		図書館見学
18	9月28日	1	緑ヶ丘女子中・高等学校		図書館・総合授業見学
19	10月10日	2	京都産業大学附属中・高等学校		図書館見学
20	10月23日	2	楽天グループ		図書館見学
21	10月26日	1	箕面自由学園中・高等学校		図書館見学
22	10月26日	1	兵庫県立赤穂高等学校		図書館見学
23	10月30日	1	イラストレーター		図書館見学
24	11月7日	2	山口県立新南陽高等学校		図書館見学
25	11月9日	251	図書館総合展		探究学習授業見学 図書館見学
26	11月16日	2	中村学園女子中・高等学校		図書館見学
27	11月18日	1	数研出版株式会社		図書館見学
28	11月22日	1	株式会社シェアウィズ		図書館見学
29	11月22日	2	株式会社三井住友銀行		図書館見学
30	12月9日	15	関西英語授業研究会「Harvest」		探究学習講演・図書館見学
31	12月18日	1	大阪暁光高等学校		図書館見学
32	1月30日	35	台湾復旦高級中学校		交流会
33	2月15日	19	リーディングインターナショナル スクール (フィリピン)		図書館見学
34	2月21日	3	株式会社ネクストレベル		特色ある学校の取材
35	3月9日	3	順天中・高等学校		GS 発表会見学・探究の懇談

次ページに11月9日「図書館総合展」の来場者内訳を掲載しています。

図書館総合展 2023 来場者一覧

所属	代表者
新潟市立新潟小学校	
横浜国立大学	
個人参加	
富士見中学校高等学校	
群馬県立伊勢崎商業高等学校	
個人参加	
東京農業大学第一高等学校	
和歌山県立新宮高等学校	
帝京平成大学ちはら台キャンパス図書室	
名古屋大学	
札幌市立平岡緑中学校	
和光市立第二中学校	
個人参加	
個人参加	
愛知県立松蔭高等学校	
帝京大学	
戸田市立図書館上戸田分館	
東洋大学川越キャンパス図書館	
佐賀大学	
柏市教育委員会学校教育指導致導課	
ドルトン東京学園中等部高等部	
個人参加	
川崎市立末長小学校	
個人参加	
熊本県立図書館	
大阪国際中学校高等学校	
新潟市立中央図書館	
浦和実業学園中学校・高等学校	
個人参加	
個人参加	
東京都立板橋高等学校	
静岡理工科大学附属図書館	
個人参加	
青山学院大学	
文化学園長野中学・高等学校	
西南学院中学校・高等学校	
個人参加	
八幡市学校図書館	
長野県松川高等学校	
早稲田実業学校	
清教学園中・高等学校	
個人参加	
足立区立谷中中学校	
山形県米沢女子短期大学	
明治大学附属中野中学高等学校	
江戸川区立中央図書館	
豊田市会計年度任用職員	
横浜市立戸塚小学校	
関西大学ミュージズ中等部高等部ライブラリー	
個人参加	
啓明学院中学校・高等学校	
紀伊國屋書店	
個人参加	
個人参加	
足立区立洲江中学校	
同志社中学校・高等学校	
実践学園中学・高等学校読書・調べ学習室	
足立区立第十二中学校	
京都府の公共図書館です	
大阪大学	
名古屋市鶴舞中央図書館	
図書館流通センター	

所属	代表者
城西大学水田記念図書館	
堺市立浜寺南中学校・深井中学校	
個人参加	
石川県白山市立北星中学校	
株式会社ネットアドバンス	
渋谷教育学園渋谷中学高等学校 司書教諭	
宮城県仙台向山高等学校	
キハラ株式会社	
品川翔英中学校高等学校	
神奈川県立大和西高等学校図書館	
株式会社ブレインテック	
足立区立やよい図書館	
徳島文理大学香川キャンパス附属図書館	
横浜市立名瀬中学校	
近畿大学中央図書館ビブリオシアター	
金沢市教育委員会学校職員課	
鹿児島県立加世田高等学校	
神奈川県立相模原中等教育学校	
神奈川県立金沢総合高等学校	
渋谷教育学園渋谷中学高等学校	
東洋大学川越キャンパス図書館	
国際基督教大学教養学部	
大阪国際中高図書館	
「あらし読み」推進会	
個人参加	
個人参加	
個人参加	
個人参加（清教学園高校1年保護者）	
個人参加	
東京都立立川国際中等教育学校・附属小学校	
筑波大学附属駒場中・高等学校	
安田女子中学高等学校図書館	
森ノ宮医療学園専門学校図書課	
個人参加	
保育社	
個人参加	
中央大学附属中学校・高等学校	
大阪体育大学浪商高校	
群馬県立嬭恋高等学校	
大阪体育大学浪商高校	
立命館中学校・高等学校	
大阪体育大学浪商中・高等学校 図書室	
群馬県立嬭恋高等学校	
早稲田大学	
個人参加	
柏原市立堅下北小学校	
港区教育委員会	
浦和実業学園高等学校	
個人参加	
箕面自由学園 紀伊國屋書店	
個人参加 同志社中学校（2024から勤務予定）	
個人参加	
木津川市教育委員会	
八王子市立別所小学校	
個人参加	
京都府立大江高等学校	
山形中央高等学校	
東京都足立区立東島根中学校	
横浜市小学校	
個人参加	
個人参加	
同志社香里中学校・高等学校	

所属	代表者
豊田市立小中学校図書館	
大阪市	
個人参加	
生駒市図書館	
近畿大学附属高等学校	
個人参加	
近畿大学附属高等学校	
かつらぎ町立笠田小学校	
個人参加	
個人参加	
群馬県立利根実業高等学校	
個人参加	
和歌山県学校司書	
個人参加	
群馬県立沼田女子高校	
ドルトン東京学園	
沖縄県立辺土名高等学校	
株式会社図書館流通センター	
埼玉県立大宮高等学校	
桜花学園高等学校	
株式会社 紀伊國屋書店	
群馬県立富岡高等学校	
芝国際中学校・高等学校	
図書館振興財団	
同志社大学	
三条高校から	
奈良大学	
桐蔭学園中等教育学校	
個人参加	
個人参加	
北九州市立大学	
学校図書館を考える会・静岡	
立川女子高等学校	
常磐大学	
個人参加	
個人参加	
宮崎県立図書館	
逗子開成中学校・高等学校	
練馬区立貫井図書館	
飛騨市図書館	
神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校図書館	
国立市立第二小学校	
田園調布学園	
藤枝市立藤枝中央小学校	
神奈川学園中学校・高等学校	
純真高等学校	
株式会社山下設計	
熊本県立小国高等学校	
個人参加	
福岡県	
学校法人日出学園	
学校司書	
神田女学園中学校高等学校図書館	
広島女学院中学高等学校	
京都府立福知山高等学校	
横浜市立共進中学校	
高崎健康福祉大学	
南部町立会見小学校	
吉祥女子中学・高等学校	
個人参加	
泉佐野市	
渋谷教育学園渋谷中学高等学校	

所属	代表者
多摩大学目黒中学校高等学校	
光塩女子学院中高等科	
筑波大学大学院	
個人参加	
株式会社ネットアドバンス	
個人参加	
都立南多摩中等教育学校	
個人参加	
新潟県立三条高校	
東洋英和女学院中学部・高等部	
明治学院中学校・東村山高等学校	
長崎国際大学	
新潟明訓中学校・高等学校	
株式会社Inspire High	
長野工業高校	
岡山県立高梁高等学校	
創価高校事務室	
新潟県立新潟西高等学校	
東京工芸大学中野図書館	
個人参加	
個人参加	
大日本図書株式会社	
神奈川県立柏陽高校	
埼玉大学教育学部附属中学校	
神奈川県立新羽高等学校	
帝塚山学院泉ヶ丘校図書館	
帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校 図書館	
滋賀県立高等学校	
個人参加	
岡山県立玉野高等学校	
群馬県立高崎高等学校	
静岡県総合教育センター図書館	
丸善雄松堂株式会社	
東洋大学	
株式会社紀伊國屋書店	
個人参加	
京都府立嵯峨野高等学校	
個人参加	
岡山県立岡山南高等学校	
西宮市立瓦木中学校○個人参加	
鶴見大学附属中学校・高等学校	
大東市立深野中学校	
個人参加	
個人参加	
個人参加	
阪南市立図書館	
三重高等学校	
奈良教育大学附属中学校	
羽曳野市立 高鷲南中学校・高鷲中学校	
和泉市立南池田中学校	
青翔開智中学校・高等学校	
青翔開智中学校・高等学校	
大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構	
個人参加（勤め先は「富士ソフト株式会社」）	
株式会社Inspire High	
広島三育学院高等学校	
大阪教育大学附属池田中学校	
近畿大学附属高等学校	
関西大倉中学校	
個人参加	
関西大学	
河内長野市立千代田小学校、西中学校	

参観者による申し込み時の表記のまま掲載。会社組織での回覧、大学講義や高校授業等で
企業職員・学生・教職員に視聴されたケースもあり、参加者実数はさらに多い

研修・学校見学等参加記録 16件（開催日・主催者「研修テーマ」講演者、会場〔参加者〕）

- ・6月8日（木）大阪私立中学校・高等学校図書館研究会 令和5年度総会および内田樹講演会〔山根〕
- ・6月24日（金）大阪府立中央図書館 国際児童文学館「講演と新刊紹介2022年に出版された本」オンライン〔山根〕〔上河〕〔南〕
- ・7月11日（火）大阪私立中学校・高等学校図書館研究会 「こども本の森」見学研修会〔山根〕
- ・8月9日（水）伊藤忠記念財団「ICTを用いた読み書きサポートの可能性と課題～学校・家庭でタブレット端末を活用する～東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 平林ルミ氏 オンライン〔山根〕〔南〕
- ・8月10日（木）伊藤忠記念財団「外国にルーツのある子どもたちの言葉と読書を支える」よこはまライブラリーフレンド 加藤佳代氏 オンライン〔山根〕〔南〕
- ・8月14日（月）伊藤忠記念財団「国際子ども図書館の障害者向け資料とサービス」国立国会図書館国際子ども図書館 オンライン〔山根〕
- ・8月16日（水）第48回近畿学校図書館研究大会福井大会「自発的・主体的・創造的な活動をはぐくむ学校図書館」 オンライン〔山根〕〔南〕
- ・8月19日（土）令和5年度 公立図書館と学校との合同研修【第3回】「ICT機器と学びの支援～教育の機会均等と図書館活用～」 オンライン〔山根〕
- ・8月23日（水）大阪府高等学校図書館研究会 大阪府学校図書館協議会共催「ChatGPTと学校図書館」〔山根〕
- ・9月22日（金）令和5年度大阪府図書館司書セミナー第1回「〔総論〕新しいユネスコ公共図書館宣言に見る図書館像」〔山根〕
- ・10月20日（金）妹尾昌俊氏WEBセミナー GIGAスクール構想と校務DX「教育改革のための教員サポート戦略：働きやすさと教育活動の高度化を両立させる手段」〔山根〕
- ・10月20日（金）一般社団法人日本教育情報化振興会（JAPET&CEC）主催 オンラインセミナー「公立小学校のICT活用事例紹介 電子書籍読み放題サービスの導入から活用まで」〔山根〕
- ・11月2日（金）令和5年度大阪府図書館司書セミナー第2回「〔著作権〕著作権法と関連するサービスの動向」〔山根〕
- ・11月24日（金）令和5年度大阪府図書館司書セミナー第3回「〔児童サービス〕物語で育つ子どもたち～読む力が未来をひらく～」〔山根〕〔上河〕
- ・2月2日（金）令和5年度大阪府図書館司書セミナー第4回「〔読書バリアフリー〕図書館と地域包括支援センターによる、認知症にやさしい取り組みについて」〔山根〕
- ・2月22日（木）令和5年度大阪府図書館司書セミナー第5回「〔図書館広報・IT〕ソーシャルメディアを用いた図書館広報について」〔山根〕〔上河〕

雑誌・新聞記事・番組出演・寄稿・WEB記事等 5件（発行日/著者「タイトル」掲載メディア〔担当〕）

- ・2023年4月 片岡則夫「『県立図書館とは何か』を問い続けて：鳥取県立図書館のビジネス支援の現在」『図書館の学校』2023年春号〔片岡〕
- ・2023年5月12日 片岡則夫「学校図書館の広報・情報発信」汐崎順子（編）『子どもの読書を考える事典』朝倉書店,p.31 - 44
- ・2023年7月 全国学校図書館協議会『確かめながら学校図書館と1人1台端末ひろがる!つながる!学校図書館』編集委員会編『確かめながら学校図書館と1人1台端末 ひろがる! つながる! 学校図書館』全国学校図書館協議会に本館の写真提供
- ・2023年7月 片岡則夫「あるも、こるも、そるも、図書館のしごとたい!」菊池市立図書館は“図書館じゃない図書館”をめざす『図書館の学校』2023年夏号〔片岡〕
- ・2023年7月 片岡則夫「『高校の部』の作品を考える『図書館を使った調べる学習コンクール』が目指す探究」（足立正治さんとの対談）2023年夏号〔片岡〕
- ・2023年9月 片岡則夫「公民連携が住民力・文化力・地価を向上させる」紫波町オガールと紫波町図書館」2023年秋号〔片岡〕
- ・2023年12月 片岡則夫「居心地のいい『街のリビング』で読みたい本にであう、ひらめく ミライエ長岡と互尊文庫」2023年冬号〔片岡〕

外部講師・学会発表等 33件/参加者のべ1468名（開催日・主催者「講座テーマ」会場、参加数〔担当〕）

- ・4月28日（金）比叡山高校「比叡山研修：現代における〔探究〕の重要性、心構え、実践」約400名（新入生）〔片岡〕
- ・5月31日 戸田市教育委員会「はじめての図書館を使った調べる学習」オンデマンド教材6本計約90分 参加者不明〔片岡〕

- ・5月30日(火) 東大阪市立図書館 図書館スタッフ向けミニ調べ学習勉強会 「ミニ調べる学習」, 東大阪市立花園図書館, 30名 [片岡]
- ・6月9日(金) 文京区教育委員会家庭教育講座「親子で楽しい! 初めての自由研究の進め方 図書館を使った調べる学習を通じて」文京区役所 30名 [片岡]
- ・6月9日(金) 茅野市こども読書活動応援センター「調べる学習から学ぶ引用と著作権: ©マークをつけてみよう!」リモート 60名 [片岡]
- ・6月26日(月) 菊池市立図書館「図書館を使った調べる学習 関係職員研修」菊池市立図書館 30名 [片岡]
- ・6月30日(金) 新宿区教育委員会学校図書館教育研修会「学校図書館の環境整備と実践」西早稲田新宿区立コズミックセンター32名 [片岡]
- ・7月2日(日) 海老名市立有馬図書館「調べる学習の始め方と注意点について」小中保護者向け有馬図書館(門沢橋) 8名 [片岡]
- ・7月8日(土) 石川・学校図書館を考える会テーマは「一人一台端末時代の探求学習と学校図書館」リモート 67名 [片岡]
- ・7月16日(日) 兵庫県 加西市立図書館「自由研究に役立つ 調べる学習の手ほどき」加西市立図書館 19名 [片岡]
- ・7月15日(土) 泉大津市「調べる学習への第一歩」泉大津市立図書館 15名 [片岡]
- ・7月23日(日) 熊取町「調べる学習応援講座」熊取図書館 13名 [片岡] [上河] [南]
- ・7月25日(火) 学芸大学付属学校「探究的な学習を支える学校図書館の蔵書構築: リブラリア名所巡」リモート 100名 [片岡]
- ・7月26日(水) 大東市立深野中学校(大阪府推進事業学校図書館活用モデル校)「探究する経験を生徒に: 教科に活かせる探究学習のツボ」大東市立深野中学校 35名 [片岡]
- ・7月27日(木) 大阪府島本町 町教研専門部会「学校図書館を活用した授業づくり: 図書館との出会いからタブレット活用まで」島本町ふれあいセンター30名 [片岡]
- ・8月2日(水) 桜井市立図書館「子ども調べる学習講座」桜井市立図書館 8名 [片岡]
- ・8月2日(水) 富田林市立 小金台小学校・明治池中学校 教職員研修会『子どもが走れば、大人も走る。: 探究学習をめぐる生徒の変容、教員の変容』50名 [山崎]
- ・8月4日(金) 座間市あすなろ大学(第25回)「図書館と楽しい大航海はつづく(仮想世界旅行)」座間市東地区文化センター71名 [片岡]
- ・8月5日(土) 座間市立図書館「自由研究応援講座(第15回)」座間市立図書館 9名 [片岡]
- ・8月19日(土) 熊取町「調べる学習応援講座発表会」熊取図書館 50名 [片岡]
- ・8月23日(水) 香川県中学校教育研究会学校図書館部会研修会「調べ学習の基礎・学校図書室でのICT活用」高松市総合教育センター50名 [片岡]
- ・8月23日(水) 愛知県学校司書研修「生徒のイニシアティブと興味が学校図書館にいのちを吹き込む: 図書館を使った探究学習・調べる学習」安城市アンフォーレ 100名 [片岡]
- ・8月24日(水) 座間市立図書館「座間市調べる学習体験講座発表会」リモート 19名 [片岡]
- ・8月29日(火) 令和5年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会 大阪市立図書館 77名 [片岡]
- ・8月30日(水) 守口市立金田小学校「ミニ調べる学習講座」守口市立金田小学校 16名 [片岡]
- ・9月8日(金) 桜井市調べる学習スタッフ研修「ミニ調べる学習講座」桜井市立図書館 14名 [片岡]
- ・11月8日(水) 貝塚市立第三中学校公開授業「学校図書館を充実・活用するための授業づくり」貝塚市立第三中学校 30名 [片岡]
- ・11月9日(木) 第28回図書館総合展「探究学習のカリキュラムに関する懇談会」「調査報告: 探究学習×図書館で生徒はどう育ったか」清教学園図書館 251件 [山崎/片岡/南]
- ・11月14日(火) 泉南郡中学校教育会「学校図書館を楽しむ学校図書館で学ぶ」「(図書館探検)と「みんなで調べる学習」ワークショップ」田尻中学校 6名 [片岡]
- ・12月9日(土) 関西英語授業研究会 Harvest 第10回南大阪支部「試論 暇と退屈の教育学: 中高生の探究学習における『テーマの決まらなさ』の検討」清教学園中・高等学校 30名 [山崎]
- ・12月20日(水) 茨木市教育委員 スクールサポーター(図書館支援) 冬季研修会「探究的な学習を支える: 学習・情報センターとしての蔵書の充実」茨木市市民総合センター50名 [片岡]
- ・1月16日(火) 学校図書館スタッフ研修「調べる学習で育てメディアリ・テラシー: 情報活用のための教養」16名 [片岡]
- ・3月14日(木) 品川区立図書館のスタッフ研修「ミニ調べる学習」, 品川区立大崎図書館分館 13名 [片岡]

外部コンクール審査員等

- ・第27回図書館を使った調べる学習コンクール [片岡] [山崎] [南]
- ・令和6年度子供の読書活動文部科学大臣表彰(図書館の部) 審査員 [片岡]

VI 課題

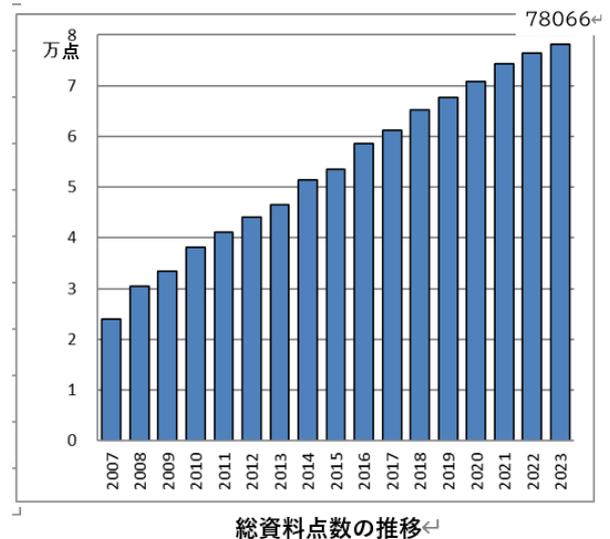
配架スペースの不足を補う書架の増設

長らく配架スペースの不足に悩まされているリブラリア。古くなった図書資料の廃棄や、館内の隙間スペースに書架を増築することによって、その場をしのぐ対応をしてきましたが、依然として抜本的な解決には至っていません。

2024年4月時点で、リブラリアの資料数は78,066点。統計を取り始めた16年前と比較して、フロア面積を変えず蔵書数は約4倍に至る勢いです。リブラリアが建設された当初の蔵書収容率を大きく越える蔵書数になっていることがわかります。その皺寄せは様々な点に表れており、「地震の際に大変危険」

「蔵書スペースを確保するために天井近くにまで図書を配架した結果、背の低い生徒が本を手になれない・背表紙が見えない」「詰め詰めに収められており、返却された本を棚に入れることができない」「図書館2階のスタディホールに書庫スペースを増築せざるを得ない」などの状況が発生しています。

2024年3月には蔵書点検期間を利用し、図書館2Fのスタディホールにスチール製本棚を設置。これまで机等を組み合わせて仮置き状態でしたが、整理し、配架することができました。これにより、書庫出納がスムーズにできるようになりました。とはいえ、これも急ごしらえの増築にすぎず、依然として書架面積そのものの拡大が望まれます。高校での利用増加（p.11参照）からわかるように、これまでも増してリブラリアの蔵書は清教生に読まれています。中・高合わせて1700名規模の生徒が、全国で最も活発に、学校図書館を利用している清教学園。その利用実態に合わせた改築が今すぐ必要です。



新書は前後2段で配架。書架に入りきらない資料は平積み状態



天井まで資料を配置。資料を手にとれない・選べない・危ない



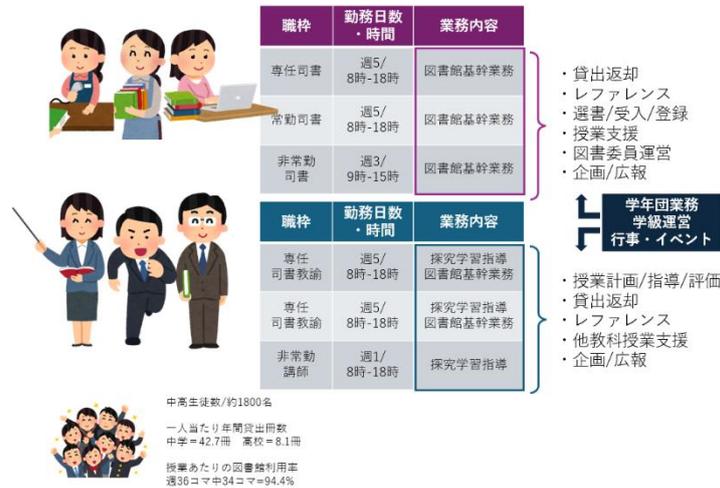
2023年3月の図書館2Fの様子。仮置き状態の書庫



書架を増設した図書館2Fの様子。書架は2024年度予算にてさらに倍増予定

スタッフ減によるサービス継続困難

図書館スタッフが部署外での仕事に割り当てられるケースが増え続けています。これにより、これまででブラリアの強みであった充実した図書館サービスや、読書推進活動の継続が困難になり、新たなサービスの展開もできない状態が続いています。



校内各所での人手不足・業務量増加の煽りを受け、他部署の人員補充のために、暫定的措置として図書館スタッフが配置されているのが原因です。たとえば「複数の専任司書・司書教諭が学年団教員として配置される」「校外行事の女性教員不足を補うために同伴を求められる」といった状況が、「○カ月だけ」「○年度だけ」といった約束のもとに発生していましたが、現在はそれが常態化しています。

図書館スタッフは保健室スタッフがそうであるように、業務に専念できるよう人員配置しなければなりません。学校図書館経営は、一般的な校務とは別種の「客商売」だからです。カウンターに複数のスタッフが必要なのはもちろん、目に見える本の貸し借りだけでなく、対面・遠隔での本の相談、読書推進活動、授業のサポート、選書・受け入れ・整備、学内学外に向けた広報活動や研究事業など、図書館経営のために必要な専門職としての仕事が多岐にわたります。これらに専念できる環境があったからこそ、全国屈指の活用事例を誇る図書館運営が実現できていました。近年の成果としても、高校生の貸出点数が順調に伸びており（一人当たり年間貸出点数8点は、全国的に見ても群を抜いています）、図書館活用と進学実績が接続されるような例も多くなりました。また、中高合わせて1800名の在校生、100名近い教職員に向けたサービスを展開し、しかも週の時間割コマ数当たりの図書館利用が30時間(利用率94%)を超える稼働率の学校図書館はそうそうありません。

しかし、現在は学年団その他の部署に常に人手が取られ、館を円滑に運営し、利用者（生徒・教職員）にサービスを提供するための機能が損なわれています。順当に成果を伸ばしつつあったこれまでの状況に対して、他部署に人手が取られがちな現在は、いま以上の図書館経営が望めないばかりか、現状維持も難しい状態です。忙しければ仕事を選び業務量を削減することが必要ですし、それについては部署内でも引き続き改善を進めますが、「客商売」である図書館経営という仕事の特性上、利用者へのサービス向上こそが最優先されるべき仕事です。学校全体で人手が不足しており、学年運営や分掌などの仕事に図書館スタッフも駆り出さなければならない状況はよくわかります。しかし図書館外の仕事を優先せざるを得ない現在、利用者サービスの質は当然低下せざるを得ません。学校経営においては、部署・職种に応じた人材の確保を求めます。

Ⅶ 図書館リブラリアの歩み 2002～2023

年度	主なできごと
2002年 (平成14年)	・現在地に図書館が移転。天井の高いホールを区切り、1階に図書館、2階に120席のスタディホールが生まれる。同時に、それまで図書館であった教室が、総合学習室としてリニューアル。
2007年 (平成19年)	・専任司書教諭着任、探究科創設・専任教諭着任 ・事業報告の刊行・統計資料の充実開始 ・総合学習等で年間約400時間の利用 ・図書の廃棄基準を定め、1176点を除籍
2008年 (平成20年)	・蔵書管理に「ライブマックス」、書誌情報のために「Tool-S」を導入 ・レファレンス資料用の低書架を増設、スタディホールに書庫増設 ・レファレンス低書架を増設、文庫棚・ビデオ棚・傾斜棚を導入 ・生徒用検索端末2台を設置 ・貸出点数を2点から5点に増加
2009年 (平成21年)	・貸出点数32278点、2006年度と比較しておよそ10倍弱 ・年度当初のオリエーション開始 ・貸出点数を5点から10点に増加 ・図書購入の見計らい開始 ・雑誌棚を新設、L型低書架スタディホールに導入、総合学習室文具棚を改造 ・第13回「図書館を使った調べる学習賞コンクール」探究科論文が文部科学大臣奨励賞・活字文化推進会議賞を受賞
2010年 (平成22年)	・大阪府下貸出点数一位を記録 ・貸出点数を10点から20点に増加 ・第14回「図書館を使った調べる学習賞コンクール」探究科論文が文部科学大臣賞・日本児童図書出版協会賞を受賞 ・「NRI学生小論文コンテスト2010」にて探究科論文が大賞受賞
2011年 (平成23年)	・清教学園60周年記念事業「『探究的な学習』が賜物を生かす」開催 ・文部科学省「読書活動優秀実践校」表彰
2012年 (平成24年)	・貸出点数が増加、4万点を突破 ・「がんばった学校支援事業」補助金交付 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」受賞 ・読売新聞「教育ルネサンス」（全国版）掲載 ・中学新入生向けの「すくど文庫」はじまる
2013年 (平成25年)	・文部科学省委託助成研究が終了 ・『なんでも学べる学校図書館をつくる』少年写真新聞社より出版 ・国際子ども図書館「調べものの部屋プロジェクト」への参加
2014年 (平成26年)	・第44回「学校図書館賞」大賞を受賞 ・図書館振興財団の助成決定：デジタルアーカイブ化はじまる ・スタディホールに書架を増設：収納量3000点増 ・学級文庫「すくどの本」を中学各教室に設置：「すくど文庫」3000点が読まれる
2015年 (平成27年)	・第9回高橋松之助記念「朝の読書大賞」を受賞 ・生徒作品のデジタルアーカイブ化が実現 ・第17回図書館総合展にブース出展

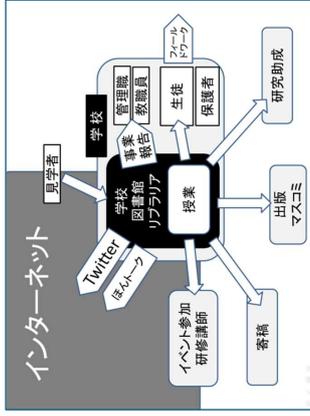
	<ul style="list-style-type: none"> ・国会図書館「レファレンス協同データベース」に参加 ・ツイッターによる情報発信を開始
2016年 (平成28年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッションによる中学卒業研究発表会を開催 ・ラーニングコモンズ開室 ・「本をつなげるプロジェクト」はじまる ・リブラリア書架・総合的学習室ロッカーを各種賞金で増設 ・「図書館を使った調べる学習コンクール」9年連続入賞 ・教育課程の変更により探究科終了
2017年 (平成29年)	<ul style="list-style-type: none"> ・リブラリア訪問者数累計1100名を突破 ・清教学園幼稚園生による「リブラリア探検」開始 ・『なんでも学べる学校図書館をつくる2』少年写真新聞社より出版 ・ラーニングコモンズ本格稼働 利用者約3000名 ・有志探究活動「清教アカデミカ」はじまる ・統計グラフコンクールに初入賞
2018年 (平成30年)	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問者新記録・累計1300名を突破 ・講談社現代新書『中高生からの論文入門』発刊 ・『探究科の記録2008～2016』まとまる ・中3卒業研究“論文形式”に進化 ・私学教育研究所委託研究決定
2019年 (令和元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響甚大：3月休館・卒業論文発表会中止 ・私学教育研究所委託研究実施 ・小学生向け「夏休み調べ学習教室」初の開催
2020年 (令和2年)	<ul style="list-style-type: none"> ・10年来の課題「蔵書スペースの限界」：総合的学習室の図書館化を提案 ・文部科学省の学校図書館事例集にWeb公開される ・コロナ禍とリブラリア：開館日数減少の中で工夫続く <ul style="list-style-type: none"> ①WebOPAC構築と予約サービス開始 ②トークライブ & 動画配信企画 ③全国の県立・私立の学校図書館との連携行事「ほんトーク」中学編、高校編開催 ・図書館総合展オンラインに出展。来場者200名以上を越える
2021年 (令和3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出点数回復：清教中は公立中の5.6倍 ・卒業論文「なんでやねん」の授業から『マイテーマの探し方：探究学習ってどうやるの』生まれる ・文科省「令和3年度学校図書館の活性化に向けた調査研究」事業実施校として指定・研究・報告 ・全国の学校図書館との連携行事「ほんトーク」、学図研ニュースに掲載 ・図書館の配架は飽和状態一層深刻化
2022年 (令和4年)	<ul style="list-style-type: none"> ・清教学園リブラリアが「Library of the Year 2022」の第二次選考対象に ・高校生への資料支援が放送大学の映像授業教材に ・卒業論文研究発表会（中学）4年ぶりの対面発表会を実施
2023年 (令和5年)	<ul style="list-style-type: none"> ・「図書館総合展2023」出展、来場者数251件を達成 ・高校生年間貸出点数が好調、生徒1人当たり8.1冊に ・アカデミカ生徒の論文が「調べる学習コンクール」優秀賞・読売新聞社賞 ・中学総合学習「はじめての探究学習」単元で「第3回 情報活用授業コンクール」優秀賞受賞 ・訪問者35件371名の新記録・累計2000名突破

【巻末特集1】「本と私たちはここにいます」広報PR：学校外に向けての発信

汐崎順子編(2023)『子どもの読書を考える事典』朝倉書店掲載
清教学園探究科教諭 片岡則夫 執筆担当箇所

発信コンテンツは足元から生まれる

広報PRのためにはコンテンツを発信するチャンネルが必要だ。大阪南部の河内長野市にある私学清教学園中・高等学校の学校図書館リブラリアでは、日々コンテンツが生み出され、社会やインターネットの世界に向けていくつもの回路を通じて発信を行っている。本の貸し借りを中心にした図書館運営、図書館を活用した授業。それらの出来事の日々の記録が情報発信を支えてきたコンテンツの源である。それらを発信する経路についてまとめたのが(図1)である。



(図1) 清教学園リブラリアの広報の全体像

学校図書館から学校内への発信

学校図書館運営の記録、各種統計や行事、その年の課題等すべて「事業報告」として年度ごとに職員会議・理事会に提出されている。今年で14年目となりこの間各種統計は継続され、多くのグラフが図書館活動の推移を詳細に示すようになった。近年では20ページを超える点字となり、インターネット上でも公開されるようになった。

一方、図書館を使った授業の記録は、教材のプリントやパワーポイント、コンピュータで入力される生徒へのアンケート調査などが基礎になる。さらに、中学の卒業論文等の各種成果物が毎年生まれ、これらの一部が蔵書として蓄積されている。

学校から社会への発信

さて、こうしたコンテンツの整理・発信である。最も日常的に行われているのが7年目となるTwitterだ。2020年度末の総ツイート数は881回、フォローは797であった。コロナ禍の中にあっても、インターネットを使った広報の力は大きく、2020年秋に参加した図書館総合展オンラインでは、図書館見学や公開授業にのべ204名が参加した。さらに、他校の本好きの生徒たちがZoomでつながる読書イベント「はんとーク」には、国内の9校が参加している。

影響力の大きな広報に出版がある。高校の卒業論文や、中3の卒業研究のテキストはかつて内製され、これらは学外の希望者に頒布された。また、中学の卒業論文のデータをまとめた『なんでも学べる学校図書館』をつくる』(全2巻)は、2013・2017年に少年写真新聞社より発行され版を重ねている。

また、『学校図書館』をはじめ、寄稿を求められれば可能な限り執筆するよう努めている(この原稿がまさにそうである)。さらに、研究助成やコンクールのチャンスをあれば、これもまた、実践を客観視

する機会として挑戦をする。選に漏れることも少なくはない。しかし、そうしてまとめた内容が次の応募に活かされる場合も多い。

マスコミへの働きかけもある。「図書館を使った調べる学習コンクール」の入賞、目新しいサービスの始動といった機会をとらえて、プレスリリースを記者クラブに届ける。打率は低いが地方版のトピックスを飾る機会も得た。

本と私たちはここにいます

時かない種は生えない。機会があれば広報の機会を逃がさないようにしたい。では、一体なぜそんな労力を広報に向けるのか。

第一に、学校図書館を成長させ、生徒への支援を充実させたいからである。俗な話で恐縮だが、広報こそが図書館の予算とスタッフを守る鍵だ。戦後の教育史を見てもなく、「図書館と読書は重要だ」と発信しなければ、学校図書館は教育の埒外にすぐにも置かれてしまうのだから。

第二に、発信を通じて実践を省みて、客観的な意味付けを加え、広く共有したいからである。清教学園での試みは限られたものだが、幸いにも各地の学校図書館で同様の取り組みをためして頂ける機会が増えている。

第三に、図書館の機能に組み込まれた、のびやかで楽しい教育思想を伝えたいからである。探究学習が花盛りではあってもテーママヤ知識を先回りしてはいないだろうか。図書館は子どもたちに、「これを読みなさい」と本を押し付けたりはしない。子どものイニシアティブのもと、読みたい本とテーマが見いだされるからこそ、楽しい読書が、大変でも楽しい探究学習が実現する。

学校図書館は校内でもその存在をアピールできていないケースが多い。学校内での情報発信とともに、学外へのPRがブーメランのようにめぐりめぐって校内に影響することを忘れてはならない。結局のところ、「本と私たちはここにいます」という訴えこそ広報の原点だ。これからも広報を通じて、学校図書館とスタッフの成長の糧としたい。

【巻末特集2】 「第3回 情報活用授業コンクール」応募作品

司書教諭 南百合絵 司書 山崎勇気 非常勤講師 片岡則夫
司書 山根美智子 司書 上河博美 図書館職員 前野昌子

授業実践報告書

総合的な学習の時間「はじめの探究学習」の実践 —自らテーマを見つけ、多様な図書館資料を味方に自ら学ぶ—

総合的な学習の時間「はじめの探究学習」(愛称「はじたん」)の実践は、清教学園中学校の1年生が入学してはじめて取り組む探究学習である。「自身の興味関心からテーマを見つけ、図書館資料を読み、必要な情報を取捨選択し、読者を想定してまとめる経験」、それがこの実践の目的である。ちなみに、中学3年間にわたる「総合的な学習の時間」において、その掉尾を飾る卒業論文「なんでやねん」の、はじめの一步としてこの単元は位置づけられている。

本単元の作品を完成させる道を通じて、様々な情報活用能力育成の場面が生まれる。具体的に、図書館での検索・探索・探求、図書の吟味、情報の取捨選択、著作権への理解、引用と出典明記、事実と意見の区別、読者を想定したまとめ方、相互評価等である。見方を変えれば、こうした諸力の育成は思考力・判断力・表現力の育成である。

また、完成した作品はGoogle classroomにアップロード・アークライブされとともに、図書館の蔵書となり、次代に向けた資料となる。学校図書館の多様な資料の活用と、生徒自身による図書館資料の充実もこの実践のねらいである。

【授業単元の概略】

- 総合的な学習の時間「はじめの探究学習」(愛称「はじたん」)
- 対象：中学1年生4クラス(150名)
- 実施時期：2022年5月23日～6月27日 各クラス7時間
- 授業者：司書教諭と司書のチームティーチングで実施

(1)指導計画

学習指導要領の「総合的な学習の時間」(以下「総合学習」)の目標には以下のような記述がある。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通じて、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
(1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
(2) 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになる。
(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

①単元・題材設定のねらいと理由

本単元では上記の目標を踏まえて以下のような単元のねらいを設定した。(1)(2)(3)は対応する学習指導要領の項目を示す。

- 自身の興味や関心を探す…(1)(2)
- 自分の関心に応じて探究的に読む習慣をつくる…(1)(2)
- 資料を探し、読み、その中から必要な情報をピックアップできる…(2)
- 読者を想定し、調べたことを人に伝えるようにまとめる…(2)(3)
- 著作権についての意識を持ち、自分の意見と人のことば(引用)を分けて書く…(2)
- 作品を相互評価し、それぞれの興味関心の多様性を知る…(1)(3)
- 作品をアーカイブし、自身の学習の記録とするとともに図書館の蔵書として次代の学習に貢献する…(3)

本単元を設定した理由を述べる。まず、本校における総合学習の目的は自ら課題を見つけ自ら学ぶ過程にある。学習指導要領がその目標で「総合的な学習を行うことを通じて」(傍点筆者)と記しているように、そうした過程が主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や創造する力を育て、自らの「賜物を生かす」(本校のスクールモットー)機会を生み出すからである。探究的な学習の基本・前提は、幅広く楽しく本を読む習慣、論理的に書く習慣の獲得にある。したがって、本校ではこの授業を通じて、一貫して多様に読み書く機会を設定している。

さて、中学1年生は入学後、図書館の仕組みと使い方を学び、様々な本と出合う「おためし読書」を例年経験する。そこで培った読書習慣の発展として、興味関心にもとづいて読書し、作品づくりや創作に挑む経験として、画用紙一枚にまとめる調べる学習を設定した。それが「はじめの探究学習」である。とはいえ、ただ調べたことを写してまとめるだけではなく、読者の存在を意識させ、モチベーション向上を図った。すなわち、「これは知らないともったいない!!」「こんなにおもしろい話(ネタ)がある」など、読者が思わず「へえ～」と言う内容を目指す、というコンセプトである。完成した作品は学園祭で展示し、先輩の作品として後輩に読まれ、将来的には近いテーマの作品同士で合本され、図書館の蔵書にもなる。

②生徒の実態

入学試験を経て入学してくる生徒たちである。小学校低学年から通塾し、勉強に多くの時間を費やしてきた生徒も多い。本校入学後は部活動や友だち付き合いなど、比較的のびのび過ごしているように見える。同時に、自分の志向や趣味が明確にある個性的な生徒も多い。

総合的な学習の時間では、前述したようにフィクション、ノンフィクション多数の本と出合う機会を持つ(「おためし読書」)。読書好きな生徒・嫌いな生徒、好みのはっきりした生徒・好みすらわからない生徒と、読書への認識や自己確立の度合いは様々であるが、課題に前向きに取り組む素直な生徒が多い。また、男女を問わず仲が良いのも本校生徒の特徴と言える。

③単元・題材全体の指導計画【全7時間】

指導計画を下表にまとめた。生徒の様子を見ながら、必要事項はその都度説明した。各時間の授業で使用したプリントは「添付資料①」を参照のこと。

時	活動内容	使用教材
1	1. 先輩の作品紹介 2. 自分は何を調べようか考える 3. 図書館に本を探しに行く → 1 テーマ2冊以上借りる 4. ふせん紙を貼りながら本を読む 5. 「はじたん」企画書 記入 → 次回提出	授業プリント1
2	1. 自分が扱うテーマの「定義」を知る → 百科事典で調べる 2. 「定義カード」を作る → 必要な箇所を抜き出す 3. 自分が扱うテーマの範囲を考える 4. 「はじめる」探究学習 企画書 提出	授業プリント2
3	1. 「はじたん」の提出要件の解説 2. 「情報カード」の書き方確認 3. 自分の意見をしゃべらせる「アバター」を作成する 4. 各自作業 (読書/カードを作る/画用紙にまとめる)	授業プリント3・4
4	1. 裏付・責任表示 配布 2. 文献表示の確認 (「調べたことカード」・画像や表の使用時) 3. 各自作業 4. 「アバターのアイデア」提出	
5	1. 各自作業 2. 「はじたん」提出	
6	1. 「はじたん」相互評価 2. 手直し 3. 「はじたん」最終提出	授業プリント5
7	1. 「はじたん」をiPadで撮影し、classroom にアップロードする 2. 振り返りアンケート	

④学校司書との事前打ち合わせ

この単元に入る以前に行った、学校司書3名との連携のための事前打ち合わせについて述べる。本単元を実施するにあたり、図書館で本を探す場面と、百科事典を使う場面でのサポートを学校司書に依頼した。

タイトルに自分の知りたいことが書かれていないと、「本がない」という生徒は多い。そこで、フロアワークでは困っているような生徒に声をかける。また、何を調べるか決めかねている生徒とも本棚を見て回り本を手渡す。さらには、百科事典の演習でも必要な項目を探せない生徒が多いため学校司書が随時1〜2名支援に入った。

⑤資料・情報の選択・収集など

インターネットの情報は、正しいかどうかの判断がその場で難しい。また、複数の図書を手に取って読み込み、関心のある分野の知識を広く異なる視点から学んでほしい。そこで、今回使用する資料は図書のみとした。適当な資料が見つからないときは、教員や学校司書に相談する。

基礎的な用語の定義は、百科事典や国語辞典、『現代用語の基礎知識』などから引用した。また、記述内容を比較検討するため、事典類と合わせて3冊以上の本を用いるよう指導した。

(2)実践記録

①指導のポイント (授業における資料・情報の利用、指導の工夫など)

本校の総合的な学習の時間では、生徒の「賜物を生かす」を目標とし、「何を学ぶか、どう学ぶか、なぜ学ぶか」を問い続ける。初めての探究学習となる本単元でも、生徒が自分の好きなものを好きと言えよう、教室内の自由な雰囲気づくりに注力した。そして、作品づくりを通して、自分とはどのような人間なのか、なにかが好きで、どういったことをおもしろがるのかを問う機会を目指した。

また、本校の総合的な学習の時間では、中学3年時に1万字を超える卒業論文の課題がある〔添付資料⑤〕。これに至る前段として、「はじたん」もそのトレネニングの一端を担っている。事実と意見の区別、読者にわかりやすい記述、3冊以上の参考資料とその出典の明記、といった指導がそうである。いさなり論文を書くのは難しいため、まずは画用紙一枚から探究学習を進めるのである。

具体的な指導例として、読書の際に付箋紙の利用を推奨した。図書館の本は書き込みができない。読書しながらの思い付きを散逸させないために、また心が動かされた箇所を見失わないように、付箋紙を貼り、必要であればそこにメモを取るよう指導した。また、要約してまとめるのではなく、①必要な箇所は抜き書きし、出典を明記して引用する〔添付資料①授業プリント2〕、②自分の意見やコメントはオリジナルのアドバイザーに言わせる〔添付資料①授業プリント3・4〕、という手法を徹底した。

②生徒のテーマと作品

このような実践のもと、実際の生徒たちの取り組みを紹介する〔詳しくは添付資料③参照〕。「ウクライナとロシアの関係について考えよう!」「欠史八代」「英国の名探偵にせまる!」「BTSはなぜ世界を夢中にさせるのか」「動物の恋」「幸せをわけて、もらって:愛鳥に幸いに長生きさせてあげる方法」「幽霊研究発表会 妖怪もあるよ!」「大阪のたこ焼きの歴史」「サルとヒト」「夢と魔法が叶う場所、東京ディズニーゾートを満喫しよう!」などである。時事問題を取り上げる生徒もいれば、家で飼っているペットの鳥や大好きなBTS、以前から興味を持っていた動物の恋愛事情、大阪人にとって身近なたこ焼きを調べる生徒など、生徒の興味関心は多岐にわたる。実際の生徒作品は〔添付資料②〕を参照のこと。

③実践の結果:アンケートの分析

①資料・情報の活用、児童生徒の変容、教員の自己評価など

1. 資料・情報を活用できたか

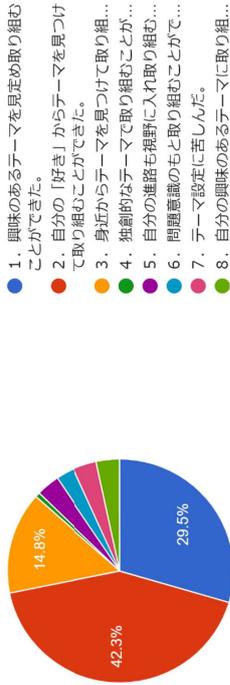
この授業において、生徒は資料を活用できたのか。単元実施期間(5/23~6/27)に、中1生がどれくらい「はじたん」に關わる本を借りたのかを集計した。総計1325冊のうち、物語の本を除く貸出冊数は1002冊であった。一人当たり6.7冊の貸出である。「はじたん」は生徒にとって様々な本を手に取り、情報を読み取る機会になったと言える。

2. 生徒はどのように「はじたん」に取り組んだか(グラフ6)

授業後、生徒にアンケートを実施した〔添付資料④〕。以下、その結果を一部参照しながら、生徒がどのように取り組んだのかを検証したい。なお、生徒の自由記述は生徒の文章のまま手を加えず引用する。

テーマ設定の動機付けについての質問では（以下グラフ「6.『はじたん』のテーマ決めについて」）、「自分の好きからテーマを選べた」生徒が一番多く、63名（42.3%）、次に「興味のあるテーマを見定められた」が44名（29.5%）となり、生徒のほとんどが自分の興味関心に素直にテーマを設定できたことがわかる。一方で、「テーマ設定に苦しんだ」「自分の興味のあるテーマに取り組みことができなかった」を選んだ生徒もそれぞれ5名いた。

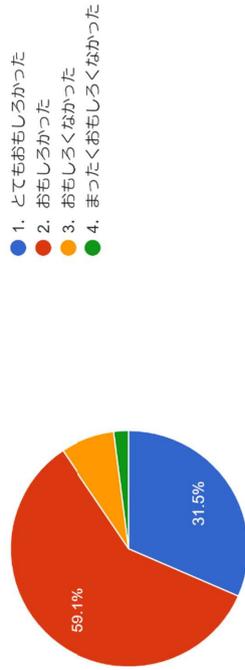
6. 「はじたん」のテーマ決めについて、おおよそあてはまるものを1つ選択肢から選びます。
149件の回答



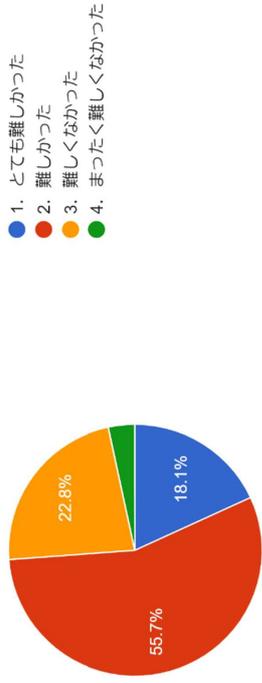
3. 生徒はどのような点におもしろさ・難しさを感じたのか（グラフ9・10）
グラフ9.『はじたん』の制作はおもしろかったと思うか。3名（2%）が「まったくおもしろくなかった」と回答した。彼らの「なぜおもしろくなかったか」についての自由記述を見てみると、「私があるまに何かを伝えなければならないことがあまり得意ではないのと引用ということを書いてある文章をそのまま使わなければならないという書きたいというのが書けなくてかなり工夫して書かなければならなかったから」「アバターに何を言わせるとかや専門的すぎずまともでいていてわかりやすい資料を見つけるのに苦労した」等、おもしろがる以前に難しさが先行してしまっただようである。

次に、難しさを問うた設問（グラフ「10.『はじたん』の制作は難しかったと思うか」）では4分の3にあたる100名の生徒が難しかったと回答している。以下に「おもしろさ」と「難しさ」の相関を示すグラフを示す。結果として「おもしろく」かつ「難しい」と感じた生徒が多数を占めていることが明らかになった。

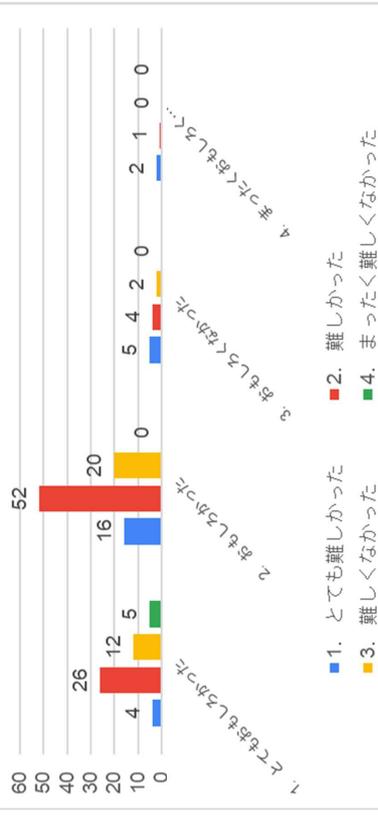
9. 「はじたん」の制作はおもしろかったと思いませんか。
149件の回答



10. 「はじたん」の制作は難しかったと思いませんか。
149件の回答



「おもしろさ」と「難しさ」の相関



では、生徒はどのような点に「おもしろさ」「難しさ」を感じたのだろうか。自由記述において、「絵を描くことや、貼り付け、デザインや要点まとめたカードの配置などが難しかったと思います。調べているから、より楽しかったです。要点をまとめたカードの配置などが難しかったと思います。」「作品を作るために自分のキャラクターを作ったり、本の内容をまとめる事が出来なかったのて苦労しましたが、自分の興味がある事だったし、作品を可愛く作ろうとするのも楽しかったからです。」など、テーマ設定の重要性を示唆する記述や、読者を想定した際に、相手に伝える難しさを意識した記述が多く見られた。また、中には、「面白いことは、自分だけのほじたんをつくればから。また、友達が見て驚いてくれたら、達成感があってもっと驚かしてやろうと工夫して楽しかったから。難しかったことは、何を書こうか、迷ったこと。友達のはじたんをみたりアドバイスしてもらったり、してみたりするのが面白かった。友達の書き方を見たりするのが個人的に好きだった。」と読者があるから楽しめたと記述する生徒も多く見られた。

また、ユーザーローカル テキストマイニングツール (<https://wordcloud.userlocal.jp/>) による

「おもしろさ」「むずかしさ」についての自由記述の分析を行った。頻出した単語は「ポップラディア」「好きだ」「リブラリア (清教学園図書館の愛称)」「難しい」である。難しいさを感じつつも、図書館を使って、好きなことにおもしろく取り組んだ生徒の姿が読み取れる。

※画像内の「10の理由」は、9. おもしろさ、10. むずかしさそれぞれの理由を記述するよう求めたため、頻出したと考えられる。

4. 後輩にすすめるか

「後輩にすすめるか」という質問は、「はじたん」がどのような課題であるかを自分の取り組み方から一步引いて、客観的に測る質問として設定した。肯定的な回答が128人、88.6%と約9割を占めた。生徒の記述では、「私的にすごくいい勉強になったし、自分で調べたことと違って頭に残るからめっちゃいいと思います。今までは自分の好きなことややら知ってるやろって思ってたけどいざ調べたら知らないこと多いぶと多かったので絶対やったほうがいいと思います。」「初めて探究してみている以上に難しかったり、どうすればいいかわからないものが結構多くて戸惑いなながらもやってみると楽しくなってきたり、知りたかったと思ったり」「自分の好きなことや物、趣味について調べてくわしく知ることができると、楽しいと思うからです。また、自分の好きなことがなくてもはじたんによくとく知ることができると思っています。」「絶対やります」といったポジティブな意見が多かったです。ここでも、難しいけれどもやってみようというおもしろさ、というおもしろさとの難しさの相関を示す記述がみられる。

一方で、「本で調べたりするのはあまり楽しくないし時間がなくて勉強する時間や自由な時間がなくなると」「作るのが大変」「難しいから」「絶対に勧めない。じゃないと後輩がかわいそうだし

自分がさがされてやっていたから、それにめんどくさくし部活にもっと熱中したい人とか、もっと違う勉強に励んだりしたい人もいますし、それどころじゃない人もいますし、少数ながらやらざる感を持って終わった生徒も見られた。

【4】考察と今後の課題

第一の考察として、学習におけるねらいと資料の関係について述べる。清教学園の学校図書館では2007年から生徒の多様な興味関心と読解力に見合った資料が組織されている[添付資料⑤⑥参照]。また、経験を積んだ学校司書による適宜のレファレンスも行われた。こうした条件のもと、生徒の資料情報の選択はスムーズかつ適正に行われた。実際に、期間中の貸出が6.7冊/人であり、3冊以上の参考文献がほぼすべての作品に記された。

第二の考察として、生徒の資料情報の利用の適切性について述べてみたい。生徒たちは学校司書の支援も受けつつ、定義を百科事典など確実な資料から引用できた。また、それぞれの関心に応じて本からの引用を行い、コメントを添えるよう努力した。その過程で、生徒がそれぞれに資料の適切性を判断し、情報の取捨選択、吟味を行った。その一方で、事実と意見の区別は中学生にとって難しいことも明らかになった。特に客観的な意見の記述は難しく、感想に終わる場合が多かった。加えて、引用箇所を採せなかったり、写す分量が多くなったりと、悩む姿が見受けられた。とはいえ、難しく悩んだからこそ、事実と意見の使い分けを意識する機会となり、オリジナルのアバターの含めて著作権についての認識は深まった。

第三の考察として、本単元の目的「自身の興味関心を探し、資料を読み、情報を取捨選択し、読者を想定してまとめる経験」に向けての指導について検討する。自身の興味関心に鑑み、自由にテーマを設定し調べてまとめる経験は、生徒の個性や多様性と相応した課題である。生徒は「おもしろさ」と「人に伝える」ことを原動力として、本を使って知識を深め、情報の取捨選択を可能とした。この「おもしろさ」には様々な要素がある。知識を深めるおもしろさ、情報をまとめるおもしろさ、ビジュアルに構成するおもしろさ、ものづくりのおもしろさなど、生徒それぞれ「おもしろさ」が認められた。また、作品に必要な要件を示し、相互評価をしたのちに、手直しの時間を取ったことが、自身の作品を客観的に評価することにもつながった。

生徒たちが自らの個性に応じた自身の世界を作り出す探究学習は重要だ。こうした経験が、中学3年生での卒業論文のテーマ設定という大仕事の足掛かりとなる。また、それとともに、論文執筆のため、「事実と意見の区別」や「引用と出典の記述」といった基礎的な情報活用能力が、難しさを伴いつつも楽しく培われた。とはいえ、生徒の毎日は忙しい。勉強・部活動・自分の時間と、しなければならぬこと、したいことがたくさんある。そんな中で、どうすれば探究的な学びを自分事に引き寄せて取り組めるのか。その土壌となるのは、日常からの豊かな読書とそれに応じた多様な図書の提供、さらには学びに対する教師や生徒からのレスポンスである。活力を持って学んだ生徒はもちろん、「やされ感」で終わった生徒の今後を、長い目で見守りたい。

最後に、多様な学校図書館の蔵書を生かすのは、この実践に見られるような生徒のインシニアチブを保障した探究学習であると強調したい。図書館はその蔵書の多様性で生徒の多様な興味を受け止め、学びを手助けする。それが本来的な姿だ。言い換えれば、「あなたは何を学びたいの?」という、問いかけの機能がはじめから組み込まれた施設が学校図書館なのである。こうした機能を生かしつつ、人間性と創造性を備えた人として生徒たちには育ててほしい。そう願ってやまない。

「おもしろさ」「むずかしさ」についての自由記述の分析を行った。頻出した単語は「ポップラディア」「好きだ」「リブラリア (清教学園図書館の愛称)」「難しい」である。難しいさを感じつつも、図書館を使って、好きなことにおもしろく取り組んだ生徒の姿が読み取れる。

※画像内の「10の理由」は、9. おもしろさ、10. むずかしさそれぞれの理由を記述するよう求めたため、頻出したと考えられる。

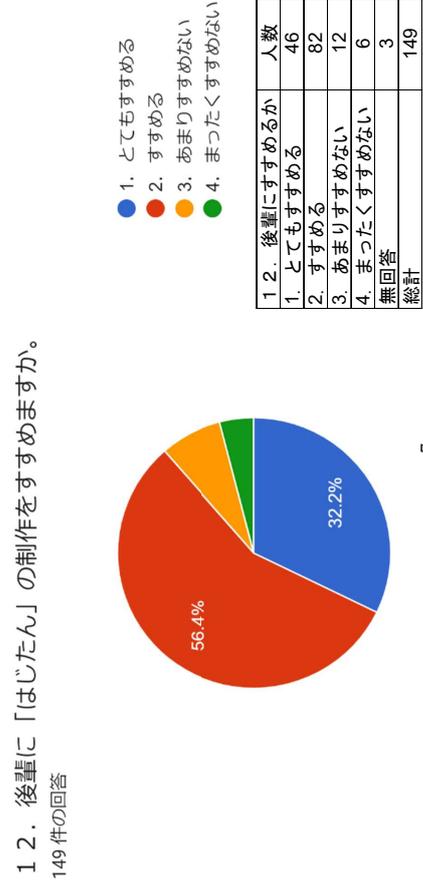
4. 後輩にすすめるか

「後輩にすすめるか」という質問は、「はじたん」がどのような課題であるかを自分の取り組み方から一步引いて、客観的に測る質問として設定した。肯定的な回答が128人、88.6%と約9割を占めた。生徒の記述では、「私的にすごくいい勉強になったし、自分で調べたことと違って頭に残るからめっちゃいいと思います。今までは自分の好きなことややら知ってるやろって思ってたけどいざ調べたら知らないこと多いぶと多かったので絶対やったほうがいいと思います。」「初めて探究してみている以上に難しかったり、どうすればいいかわからないものが結構多くて戸惑いなながらもやってみると楽しくなってきたり、知りたかったと思ったり」「自分の好きなことや物、趣味について調べてくわしく知ることができると、楽しいと思うからです。また、自分の好きなことがなくてもはじたんによくとく知ることができると思っています。」「絶対やります」といったポジティブな意見が多かったです。ここでも、難しいけれどもやってみようというおもしろさ、というおもしろさとの難しさの相関を示す記述がみられる。

一方で、「本で調べたりするのはあまり楽しくないし時間がなくて勉強する時間や自由な時間がなくなると」「作るのが大変」「難しいから」「絶対に勧めない。じゃないと後輩がかわいそうだし

1. 2. 後輩に「はじたん」の制作をすすめますか。149件の回答

1. 2. 後輩にすすめるか 人数
 1. とてもすすめる 46
 2. すずめる 82
 3. あまりすすめない 12
 4. まったくすすめない 6
 無回答 3
 総計 149



LIBRARIA

SEIKYO

総合図書館 清教学園リブラリア
2023 年度事業報告

発行日：2024 年 5 月 27 日

著者：清教学園中・高等学校 図書館教育

印刷・製本：清教キャンパス

連絡先：

〒586-8585 大阪府河内長野市末広町 623

TEL 0721-62-6828



本報告書はクリエイティブ・コモンズ・ライセンスを採用しています。クレジット（著者、発行者）を表示し、かつ内容を改変しないことを条件に、非営利目的での利用（転載、複製、印刷、共有）が行えます。ご不明な点は清教学園図書館までお問い合わせ下さい。